

第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会



大会研究テーマ 「『わたし』の喜び」あふれる造形活動

- 開催日 2014年7月29日(火)
 場所 旭川市立永山中学校 (特別支援授業会場 旭川市立永山小学校)
 主催 ○北海道造形教育連盟 ○第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会実行委員会
 (旭川市教育研究会図工・美術部 上川造形教育研究会)
 後援 ○北海道教育委員会 ○北海道教育厅上川教育局 ○旭川市教育委員会
 ○旭川市小学校長会 ○旭川市中学校長会 ○上川管内校長会
 ○旭川市教育研究会 ○上川管内教育研究会
 ○北海道高等学校文化連盟 ○北海道私立幼稚園協会旭川支部

目次

挨拶

- 北海道造形教育連盟会長 札幌市立札幌小学校 校長 安木 尚博
- 上川・旭川大会実行委員長 旭川市立東栄小学校 校長 佐藤 之憲

祝辞

- 北海道教育庁上川教育局 局長 小野寺一郎様
- 旭川市教育委員会 教育長 小池 語朗様
- 大会日程・開閉会式次第
- 会場案内図
- 公開授業・分科会一覧
- 造形まつりブース一覧・造形教育を語る集い（レセプションのご案内）

研究概要

- 北海道造形教育連盟研究主題 北海道造形教育連盟研究部長 湯浅 大吾
- 上川・旭川大会研究主題・構造図 上川・旭川大会研究部長 中島 圭介

指導案

- 幼稚園指導案
- 小学校指導案
- 中学校指導案
- 高校指導案
- 特別支援指導案

提言

- 幼稚園提言
- 小中学校提言
- 高校提言
- 特別支援提言

規約・研究のあゆみ・地区サークル・名簿

- 北海道造形教育連盟規約
- 研究のあゆみ
- 平成26年度 北海道造形教育連盟名簿
- 地区サークル名簿
- 上川・旭川大会役員一覧
- 全道造形ネットワーク地区サークル紹介

第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会シンボルマーク
旭川市立愛宕中学校 上野涼瑠さんの作品



つなげることとつながること



北海道造形教育連盟 会長 安木 尚博
(札幌市立札幌小学校)

「濫觴」(らんしょう)という言葉があります。偉大なる大河(長江)も、その源をたどれば盃一杯が浮かぶほどのささやかな流れであり、盃の一滴(しずく)から生まれるという意味なのですが、64年の歩みを刻む本連盟の姿と重なります。多くの先輩たちが、その時代、時代において築きつなげてきた北海道の図画工作科・美術科の授業の実際がそこにあります。流れは決して止まることなく、流れの有り様を変えながら過去を今を、未来を流れ続けていくことなのでしょう。

新たな造形教育の歴史が、ここ上川・旭川で加わります。第64回北海道造形教育研究大会が、旭川市で開催できることを嬉しく思うと同時に、これまで上川造形教育研究会・旭川市教育研究会 図工・美術部の先生方のご努力に心より感謝と敬意を表します。

本大会では、研究テーマに“『わたし』の喜び”あふれる造形活動”を掲げ、目の前の子どもと向かい合い、一人一人の子どもの表現活動に寄り添う教師の姿と自己の表現活動への肯定感を味わう子どもの姿を校種を貫いて求めていきます。

北海道造形教育連盟の研究主題「“わたし”を創る～自立と共生の造形教育をめざして～」は、2009年上川・旭川大会から設定、当初5カ年計画で進められ昨年の石狩大会で一区切りを付ける予定でしたが、さらに2年間継続し研究を進めることとなりました。このことは、研究を進めていく中で、子どもの学びについて私たちが確かな手応えをつかみ、次への新たなステップに進みたいという強い願いから始まったことです。私たちが願うこと、それは子どもを育てることです。本大会においても、そのことは底流を成し、向かう先に見えるものは同様です。日々の授業の中で子どもの育ちを感じたいという造形教育に携わる指導者の思いの強さは、図画工作科、美術科が人間育成の基本教科・科目であることの証であり、この理念もまた、引き継ぎ引き継がれ色褪せることはありません。

子どもと共にある楽しさ、子どもと共に学べる喜びに、幸福感を感じる教師でありたいと願い、そのために学び合う場として毎年、各地で全道大会を開催している意味があるのだと思います。

本大会では、幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援の16の授業公開を始め、各サークルで企画した造形まつりなど、また日々の実践の交流や話し合いをとおして、多くのことを学べる大会となることを確信しています。

最後になりましたが、本大会の開催にご支援いただきました北海道教育庁上川教育局、旭川市教育委員会をはじめとする関係各位の皆様には、心よりお礼を申し上げます。

上川・旭川大会の開催に当たって



第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会

実行委員長 佐藤 之憲

わたしたち上川造形教育研究会と旭川市教育研究会図工・美術部は互いに連携・協力し、南北に長い上川にあって小規模校が点在する地理的、学校規模的な情報交流上のハンディを解消すべく、常に図画工作科・美術科の情報を発信、交流し、教育実践を確実に果たす中心的な役割を担ってきたと自負しています。

経済界からは、「図工・美術は何の役に立っているのか」等の考えも見られた状況下ではありましたが、今回、学習指導要領の教科目標に「…感性を働かせながら…豊かな情操を養う。」と明記され、義務教育として、子どもたちにこのことを確かに育まなければならない教科として認められ、新教科書での授業が小・中学校で完全実施されています。ですから、今後、数年の図画工作科・美術科の教育実践結果は、必修教科としての存在価値を問われるに違いないと認識をあらたにしているところです。

そこで、わたしたちは上川・旭川大会を開催するに当たり、これからの造形教育を推進する上での責任と方向性を示さなければならないという強い意識で今大会を準備してまいりました。わたしたちは上川管内の造形教育を活性化し、義務教育9年間を見通した小中の連携を基盤として、授業研究を柱とした「深める研究」と支援事業や連携事業を柱とした「広める研究」を進めているところです。今年の大会ではその取組と成果を発表していきたいと考えています。

また、多くの先生方の多様なニーズにお応えができるよう授業も小学校5、中学校5、幼稚園4、高校1、特別支援1、計16本を用意いたしました。さらに「チーム北海道」としての一体感をより一層感じていただくために「造形まつり in 全道造形」を設け、授業に直ぐ役立つ、あるいはヒントになる多数の題材屋台に加え、多彩な「広げる」ブース、「アートキャンプ in 北海道」など地域連携ブースを展開いたします。あわせて、前回の上川・旭川大会でご好評をいただきました道立旭川美術館での「造形教育を語る集い」もさらに工夫、充実させ実施いたします。上川・旭川大会では「参加いただければ必ず何か得られる研究大会」をモットーに図工・美術会員・部員総力を挙げての運営となります。不十分なところも多々あると思いますがどうかご容赦ください。

終わりになりますが、本大会の開催に当たり北海道造形教育連盟をはじめ、北海道教育委員会、旭川市教育委員会、富良野市教育委員会、鷹栖町教育委員会及び各関係の皆様にご心よりお礼を申し上げます。大会のご挨拶といたします。

第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会の成果に期待して



北海道教育庁上川教育局 局長 小野寺 一郎

はるかに大雪山の雄大な山々を望み、幾筋もの清流が大地を潤す、自然豊かなここ旭川市において、第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会が、全道各地から多数の先生方をお迎えし、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

北海道造形教育連盟におかれましては、長年にわたり、組織的・計画的に実践研究を積み重ねられるとともに、全道各地において研究大会を開催し、授業公開や研究協議を通して実践の交流を図るなど、本道における図画工作科・美術科教育の充実・発展に多大な貢献をいただいておりますことに深く敬意を表する次第であります。

さて、今日、急速な情報化やグローバル化など、社会が急激に変化する中、幅広い知識と柔軟な思考力をもち、国際的な視野に立って他者と協働しながら、たくましく生きる子どもを育成するために、豊かな情操や他者への思いやりの心、規範意識などの豊かな心や、学ぶ意欲など生涯を生きていくための基盤としての確かな学力など、「生きる力」を確実に育むことが求められております。

とりわけ、図画工作科・美術科においては、創造することの楽しさを感じ取るとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むことが大切です。

そのため、各学校においては、創造活動を通して子どもが作り出す喜びを味わい、見方や感じ方を広げ、新しい価値を創り出す学習の充実を図るとともに、地域や子どもの実態に応じて郷土の美術や文化を取り上げ、諸外国との共通性や固有性を感じ取らせながら、我が国の美術文化の継承への関心を高めるなど、学習活動を工夫することが大切です。

このような中、本研究大会が「“わたし”を創る～自立と共生の造形教育をめざして～」を全道共通の研究主題に掲げ、“「『わたし』の喜び」あふれる造形活動”を上川・旭川大会の研究テーマとして、公開授業や研究協議を通して、研究を深められますことは、誠に時宜を得たものであります。

御参会の皆様には、本大会で示された先進的な取組を全道の各地域にもち帰られ、各学校における日常実践に積極的に活用し、造形教育の一層の充実を図られますことを御期待申し上げます。

結びに、北海道造形教育連盟のますますの御発展と本大会の開催に御尽力いただいた関係者の皆様方の御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会を祝して



旭川市教育委員会 教育長 小池 語朗

雄大な大雪山連峰を仰ぎ、石狩川をはじめとする多くの河川が流れる自然美しい街、ここ旭川市において、第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会が盛大に開催されますことをお祝い申し上げますとともに、全道各地から御参加の皆様を心から歓迎いたします。

さて、昨年6月に閣議決定された第2期教育振興基本計画には、「社会を生き抜く力の養成」などの4つの基本的方向性を実現するために、国として行うべき具体的方策として、初等中等教育段階においては、「生きる力」の確実な育成を図ることなどが示されました。中でも、「豊かな心の育成」にかかわっては、「豊かな情操」や「他者への思いやり」を育むことが一層重視されました。

図画工作・美術教育におきましても、表現及び鑑賞の活動を通して、子どもたちが自らの感性を豊かに働かせて、つくりだす喜びを味わうことや、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことが求められております。

このような折、本大会が「“わたし”を創る～自立と共生の造形教育をめざして～」を研究主題とし、“「『わたし』の喜び」あふれる造形活動”を大会テーマに掲げ、16の公開授業を実施し、研究協議及び分科会を通して研究を深められますことは誠に時宜を得たものであり、教育委員会といたしましてもその成果に大きな期待を寄せているところでございます。

とりわけ、本大会では、幼稚園から小・中・高等学校まで、幅広く公開授業を実施されますことは、参加された多くの方々に大きな示唆を与えていただけるものと確信しております。

終わりになりますが、本大会の開催に当たり御尽力いただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、北海道造形教育連盟のますますの御発展と御参会の皆様のお活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

■大会日程

受付	開会式	研究について	深める研究		広げる研究	深める研究	移動	美術館鑑賞	広げる研究	
			授業①	授業②	造形まつり in 全道造形 昼食	分科会			造形教育を語る集いⅠ	造形教育を語る集いⅡ (セッション) 閉会式
	9:00		10:00	11:00	12:00	14:00	16:00	17:10	18:00	

■開閉会式次第

【開会式】

司会 上川・旭川大会副実行委員長 吉中 博道

- | | | | |
|---|--------|--------------------------------|--------------------|
| 1 | 開会の言葉 | 上川・旭川大会副実行委員長 | 菅原 良和 |
| 2 | 挨拶 | 北海道造形教育連盟会会長 | 安木 尚博 |
| 3 | 祝辞 | 北海道教育庁上川教育局 局長
旭川市教育委員会 教育長 | 小野寺一郎 様
小池 語朗 様 |
| 4 | 来賓紹介 | 上川・旭川大会副実行委員長 | 宮寄 智 |
| 5 | 研究概要説明 | 北海道造形教育連盟研究部長
上川・旭川大会研究部長 | 湯浅 大吾
中島 圭介 |
| 6 | 閉会の言葉 | 上川・旭川大会副実行委員長 | 菅原 良和 |

【閉会式】

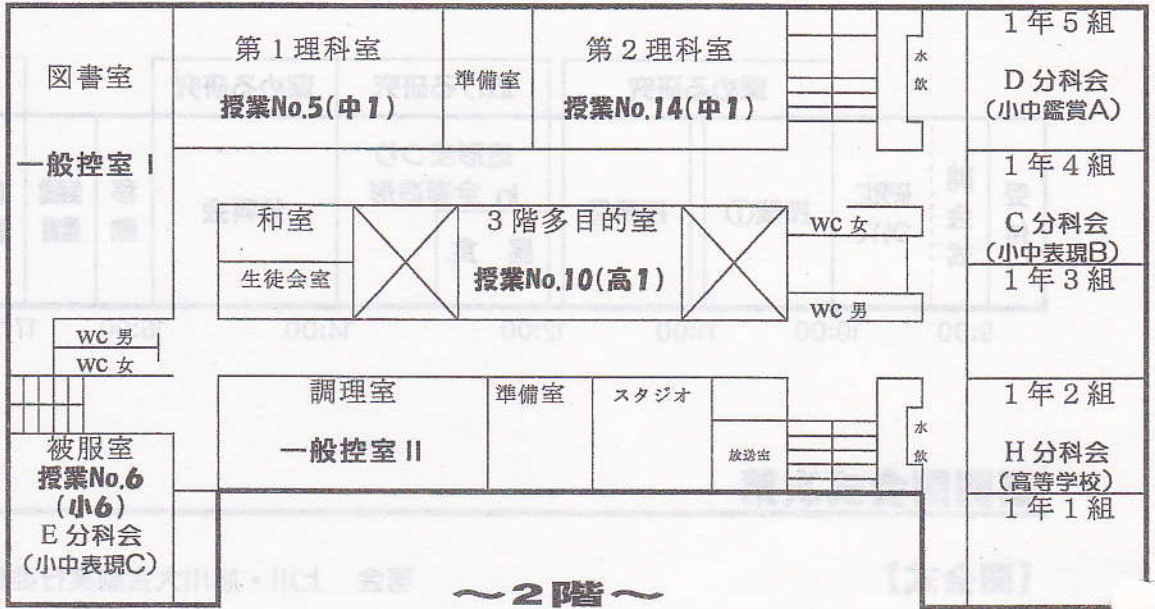
司会 上川・旭川大会副実行委員長 西田 朋代

- | | | | |
|---|-----------|------------------------------|----------------|
| 1 | 開会の言葉 | 上川・旭川大会副実行委員長 | 西田 朋代 |
| 2 | 挨拶 | 北海道造形教育連盟会会長
上川・旭川大会実行委員長 | 安木 尚博
佐藤 之憲 |
| 3 | 連盟旗引継 | 上川・旭川 から 渡島・函館 へ | |
| 4 | 次期開催地代表挨拶 | 渡島・函館大会実行委員長 | 土谷 敬 |
| 5 | 閉会の言葉 | 上川・旭川大会副実行委員長 | 西田 朋代 |

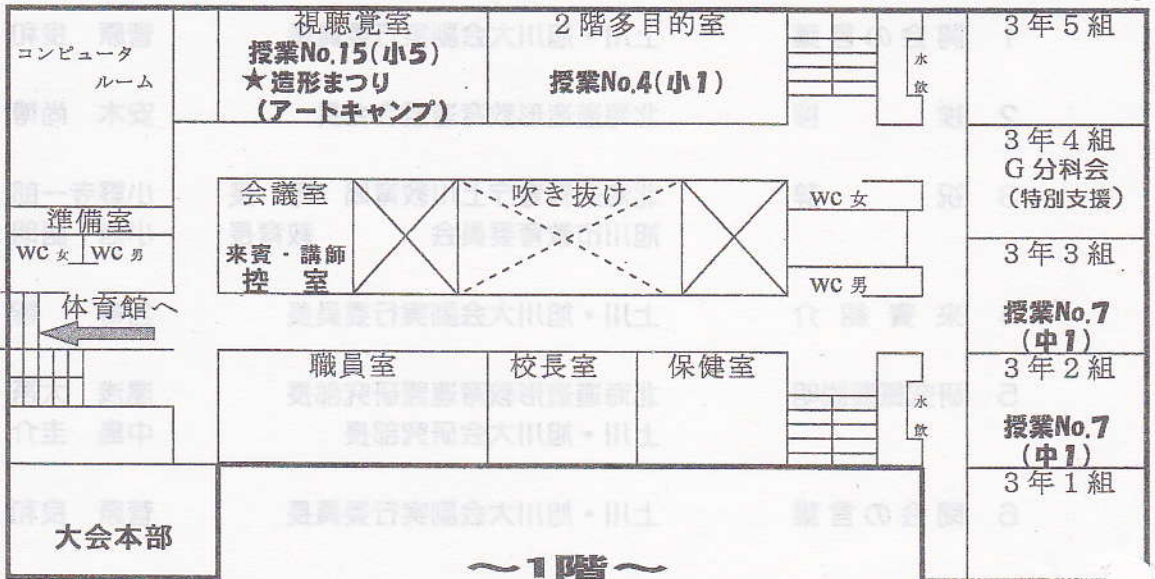
■会場図 (旭川市立永山中学校)

～3階～

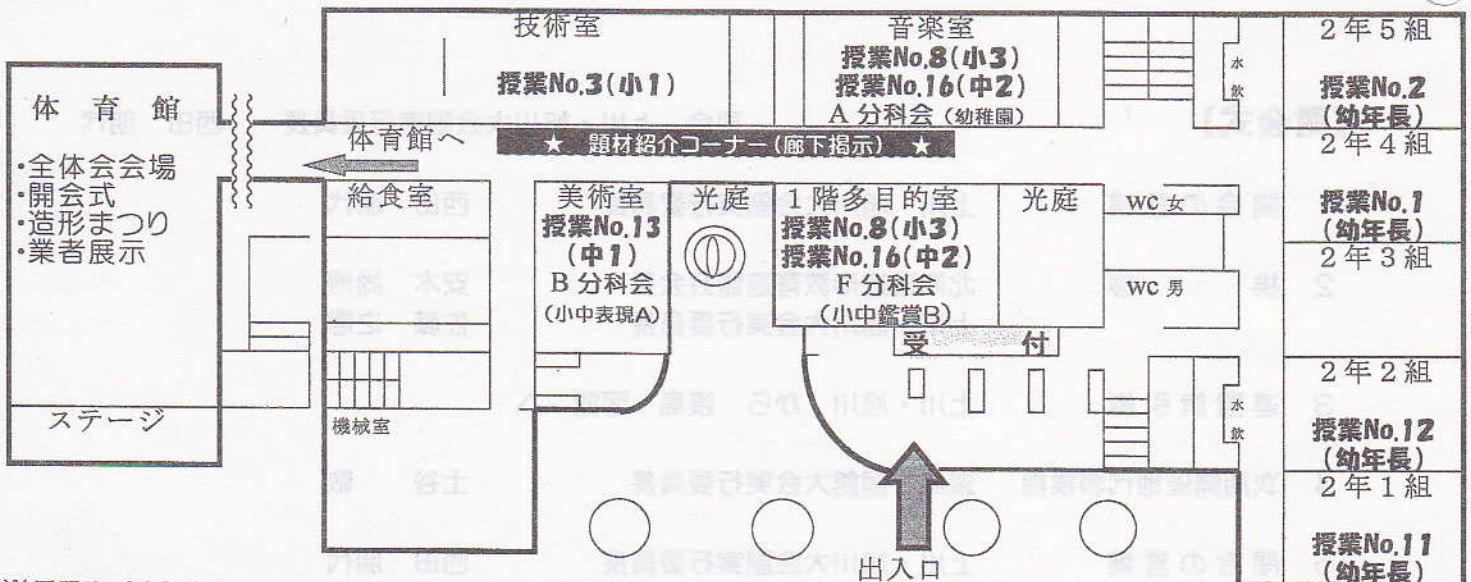
公開授業		分科会
授業⑩10:00～10:50		
1	年長 海の世界ヘッダー!	A
2	年長 虫の世界ヘッダー!	A
3	小1 すなやつちとなかよし(造)	B
4	小1 なじになるかな(造)	C
5	中1 想像美術館(鑑)	D
6	小6 想像のつばさを広げて(鑑)	E
7	中1 最高にOOな顔(鑑)	E
8	小3 彫刻巡回展示出前授業(鑑)	F
9	小特 見立てて、ふれて、ひろげよう(造) ※会場永山小学校	G
10	高1 コマ割りアニメーション(視)	H
授業⑪11:00～11:50		
11	年長 あつちいぬいぞろいぞろかん	A
12	年長 ぼくちわたくしちのからいウツ	A
13	中1 だいいな宝箱(工)	B
14	中1 自然からのイメージを広げよう(立)	C
15	小5 アートポスターになって(鑑)	D
16	中2 彫刻巡回展示出前授業(鑑)	F
★2時間続きの授業(10:00-11:50)		
7	中1 最高にOOな顔(鑑)	
10	高1 コマ割りアニメーション(視)	
分科会		
A	幼稚園	
B	小中表現A	
C	小中表現B	
D	小中鑑賞A	
E	小中表現C	
F	小中鑑賞B	
G	特別支援	
H	高等学校	



～2階～



～1階～



※授業No.9(小特支)については永山小学校で行います

公開授業・分科会一覧

学年	授業 No	題材名(領域)	授業者	授業 会場	対象分科会	分科会 会場
年長	1	海の世界ヘレッツゴー!	阿部 清香 (旭川大学附属幼稚園)	2年4組 (1F)	幼稚園	音楽室 (1F)
	2	虫の世界ヘレッツゴー!	生駒知絵梨 (旭川大学附属幼稚園)	2年5組 (1F)		
小1	3	すなやつちとなかよし/ねんどで(造)	小川 雄平 (旭川市立東光小学校)	技術室 (1F)	小中表現A	美術室 (1F)
小1	4	なにになるかな(造)	西永 円 (旭川市立末広北小学校)	多目的室 (2F)	小中表現B	1年4組 (3F)
中1	5	想像美術館(鑑)	山田 幸子 (旭川市立神居中学校)	第1理科室 (3F)	小中鑑賞A	1年5組 (3F)
小6	6	想像のつばさを広げて(絵)	木村 文香 (鷹栖町立北野小学校)	1年6組 (3F)	小中表現C	1年6組 (3F)
中1	7	最高に〇〇な顔(絵) ※2時間続きの授業です	藤原 賢 (富良野市立樹海中学校)	3年1組 2組 (2F)		
小3	8	彫刻巡回展示出前授業 旭川の彫刻家展(鑑) ～具象と抽象～	渡辺 悟史 (教育大学附属旭川小学校) 他	多目的室 音楽室 (1F)	小中鑑賞B	多目的室 (1F)
小特支	9	見立てて、ふれて、広げよう(造)	松本 敏治 若木 博幸 吉田 梨江 (旭川市立永山小学校)	永山小	特別支援	3年3組 (2F)
高1	10	コマ撮りアニメーション(視) ※2時間続きの授業です	板谷 諭使 (北海道旭川北高等学校)	多目的室 (3F)	高等学校	1年2組 (3F)
年長	11	あったらいいなこんなすいぞくかん	井手 愛 (旭川くりの木幼稚園)	2年1組 (1F)	幼稚園	音楽室 (1F)
	12	ぼくたちわたしたちのみらいタウン	川森 恵未 (旭川くりの木幼稚園)	2年2組 (2F)		
中1	13	だじな宝箱(工)	澤田 克之 (旭川市立東明中学校)	美術室 (1F)	小中表現A	美術室 (1F)
中1	14	自然からイメージを広げよう(立)	桑村美由紀 (教育大学附属旭川中学校)	第2理科室 (3F)	小中表現B	1年4組 (3F)
小5	15	アートレポーターになって(鑑)	栗林 友恵 (旭川市立神居東小学校)	視聴覚室 (2F)	小中鑑賞A	1年5組 (3F)
中1	7	最高に〇〇な顔(絵) ※2時間続きの授業です	藤原 賢 (富良野市立樹海中学校)	3年1組 2組 (2F)	小中表現C	1年6組 (3F)
中2	16	彫刻巡回展示出前授業 旭川の彫刻家展(鑑) ～具象と抽象～	川原 潤 (旭川市立永山中学校)	多目的室 音楽室 (1F)	小中鑑賞B	多目的室 (1F)
高1	10	コマ撮りアニメーション(視) ※2時間続きの授業です	板谷 諭使 (北海道旭川北高等学校)	多目的室 (3F)	高等学校	1年2組 (3F)

造形まつり in 全道造形			
No	題材名	内容概要	所属
1	モノタイプ(版画)	5分でできる版画です。塩ビ板と黒インクで不思議な模様を作ります。	旭川市教育研究会 図工・美術部
2	木の实ホイホイ	どんぐりや、松ぼっくりなどの自然素材を使い、手軽にできる工作を紹介します。誰でもホイホイと簡単にできますよ。	
3	チョーク刻	チョークを彫刻します。なんと！アクリルケース付き！	上川造形教育研究会
4	あなたもデザイナーになるう!!	様々な種類の紙にデザインし、組み立てることで、テキスタイルデザインとものの形を楽しみましょう！ 幼・小・中〜どこでも使える教材開発です！	
5	造形ざんまい札幌店	授業のネタになる“素材”を「お客さん」に提供します。授業の概要を「お土産」としてもって帰っていただきます。	札幌市造形教育連盟
6	指導実践のトビラ	日々の実践の様子と、指導案から、今後生きる様々なヒントに出会えます。	
7	石狩造連出張販売所	DVD販売、過去の作品集を販売します。	石狩造形教育連盟
8	流し込みステンドグラス	木枠にガラス片や砂などを敷き詰め、FRP樹脂を流し込みます。	空知美術教育研究会
9	サンセット王国!! るもいのビーチ出現	地域素材の再発見を合言葉に、体育館にオロロンラインの砂浜を出現させます。ビーチコーミングで出現した素材を使った作品の制作と記念撮影をします。	留萌地方美術教育研究会
10	コマ撮りアニメーション作品上映会	コマ撮りアニメーションの作り方についてのレクチャーや実際に作成したコマ撮りアニメーションを鑑賞します。	函館市美術教育研究会
11	ペキタ工作広場 in旭川	釧路市立美術館で、子どもを対象に開催している「ペキタ工作広場」が旭川に出張します。簡単な工作を自由に楽しむことができます。「ペキタ」も登場予定！ペキタグッズの販売もあるかも!?	釧路造形教育研究会
12	オホーツク発 世界で1つ! MY絵本SHOP!!	ミニ絵本の制作をします。世界に1つだけの絵本をつくりましょう!	オホーツク造形教育連盟
13	子どもと作ろう! 学校を楽しくするかざり	校内行事の壁面飾り、胸花づくりをします。	帯広市教育研究会図工美術部会&十勝造形サークル
14	彫刻巡回展示出前授業 in全道造形	授業①、②でお見せした「彫刻巡回展示出前授業」を実際に体験できます。	旭川地域連携 アートプロジェクト
15	歴代都図研会長たちがおくる 痛快☆図工・美術のお悩み相談所	①鈴石弘之先生による講話 ②参加者が持参した児童・生徒の作品について、鈴石先生・矢木先生・辻先生が児童・生徒へのアプローチ方法や授業改善へのヒントをアドバイス。日頃の授業で悩んでいること、その他質問にも対応いたします。依頼人以外の方の見学もOKです。	アートキャンプin北海道

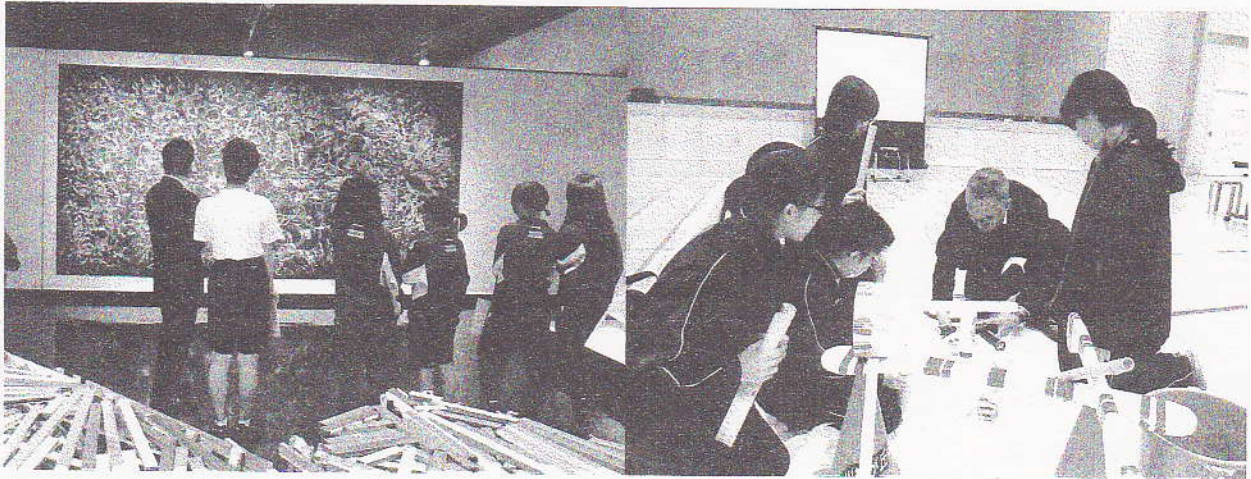
※15の「歴代都図研会長たちがおくる 痛快☆図工・美術のお悩み相談所」は、体育館ではなく、2F視聴覚室にて行います。

造形教育を語る集いⅠ・Ⅱ

【造形教育を語る集いⅠ】

現在、全国的に注目されている美術館との連携の取り組み、美術部の組織づくりなどを紹介いたします。これからの美術館との連携のあり方、美術部の活性化について皆さんと共に考えていきましょう。

- 時 間 17:10 ~ 18:00
- 場 所 北海道立旭川美術館 講堂（旭川市常磐公園内）
 ※永山中学校からシャトルバスを運行します。
 （永山中学校発16:15）片道300円



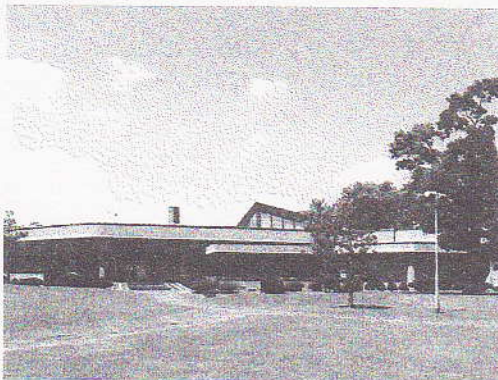
【造形教育を語る集いⅡ（レセプション）】

旭川美術館において、レセプションを行います。美術館の中で造形教育について語り合いながら、グラスを傾けてみませんか？

- 時 間 18:00 ~
- 場 所 北海道立旭川美術館（旭川市常磐公園内）
- 会 費 4,500円

旭川市立永山中学校より旭川美術館経由、旭川駅行きのシャトルバスを運行します。
 （永山中学校発16:15）片道300円

※常磐公園内の駐車場は、時間外のため利用できません。



研究概要



「大木と87の家」 旭川市立末広北小学校 3年 田中 理貴

(平成25年度旭川市児童生徒作品展 旭川市長賞)



“わたし”を創る

～自立と共生の造形教育をめざして～

この北海道造形教育連盟研究主題を全道の会員の皆さんにお披露目したのが、5年前の2009年に開催された第59回全道造形教育研究大会上川・旭川大会で、会場も同じ永山中学校でした。つまり第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会は、6年目を迎える現研究主題の下で、2回目の開催となるのです。この研究主題の設定に関わった者としては、大変感慨深いものがあります。

5年前に永山中学校で研究主題説明をした際、北造研究部がめざすものとして3つの提案をしました。一つ目は、北海道の「美術教育支援」。二つ目は、2年後に迫っていた『全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道』に向けた、「TEAM北海道の力の結集」。三つ目は、各地区の実践を通した「研究主題の更新」です。

二つ目については、提言発表者や助言者など20の分科会の運営などで、東日本大震災などで出た欠員の穴埋めも含め、北海道の皆さんの力を借りて無事に乗り切ることができました。心から感謝申し上げます。

三つ目「研究主題の検証」についても、3年目の中間の検証を『全国図画工作・美術教育研究大会 in 北海道』で全国の先生を対象に行いました。また、5年目のまとめの検証を、昨年行われた第63回全道造形教育研究大会石狩大会で行い、継続が決定し今日に至ります。

そして、今年度からは、一つ目の「美術教育支援」に重点をおいて取り組んでいきます。

「美術教育支援」については、ネットワーク会議では以前から話題になっていました。正式に

全道造形教育研究大会開催の目的に設定したのは、2008年の『第58回いしかり・北広島大会』が初めてでした。その後、翌年の2009年『第59回上川・旭川大会』にも引き継がれ、『第63回石狩大会』、そして今回の『第64回上川・旭川大会』にも継承されています。

明日の図工や美術の授業どうしよう？

この上川・旭川が提唱している問題に、北造研究部として、二つの側面が含まれていると考えます。

一つは、学校の小規模化に伴い、若い先生や免許外で教えなくてはいけない先生が日常的に相談できる人材が見つかりにくいということです。もう一つは、その頼れる人材バンクたる各地区サークルが、教員養成の再編による美術免許取得機会や採用枠の縮小で後進不足による体力の低下が進んでいるということだと捉えています。

この問題を乗り越えていくためには、人と人とを繋げ仲間の輪を広げていくことが大切だと思います。前回の上川・旭川大会の時、高知県から参加していた先生から、「どうして広い北海道で先生方のネットワークが実現できているのか分かりました。核になる人なのですね。」と言われたのを思い出します。その役割を北造研究部は重点をかけて担います。

年2回のネットワーク会議やメーリングリストで、支援を必要としている人やグループの情報を集めたいと思います。そして、現地へ出かけ関係作りをしていきます。また、単発の研修会や講演会の参加や運営などに止まるのではなく、日常的に交流のできる仲間になることが最終目標です。それには、TEAM北海道の皆さんの協力無しには実現できません。今後ともよろしくお願いいたします。

Trekking to 上川・旭川大会

あ る き か た

上川・旭川大会のすごさと見どころ

アチアチイズ

大会コンセプト **「明日からの図工や美術の授業をどうしよう？」**

が、この研究大会に参加すると...

受付	開会式	研究について	深める研究		広げる研究	深める研究	移動	美術館鑑賞	広げる研究	
			授業①	授業②	造形まつり in 全道造形 昼食	分科会			造形教育を語る 集いI	造形教育を語る集いII (レセプション)

小学校5本、中学校5本、高校1本、幼稚園4本、特別支援1本、合計16本の授業公開は、はっきり言って全国大会並みです。2011年の全国大会でも幼稚園は2本、高校は授業を打てなかったのですから、すごい一言です。

8つの提言と分科会。そして、北海道が誇る豪華な助言者の陣容。こちらも正に全国大会級。

旭川が全国的に注目されている真髓、美術館と大学と学校の連携、「地域連携アートプロジェクト」のなせるわざ。これも全国で、いや世界でここだけではないでしょうか？なんと美術館の中でお酒を飲みながら、美術教育について語り合えるのです！

研究の説明を聞いてから授業を見るというスタイルを始めたのは、2008年第58回いしかり・北広島大会で、以来多くの大会で取り入れられています。全国大会でも採用しました。

上川や旭川はもとより、札幌、石狩、空知、留萌、函館、釧路、オホーツク、帯広・十勝と正にオール北海道による全道大会。理想とするこれからの大会の方向性を示しています。これなら小さな町など、どこの地域でも全道大会が開催可能です。

「明日からの授業に力がわいてくる」 こと間違い無し

会費3,000円も財布にやさしく参加しやすい！

研究概要

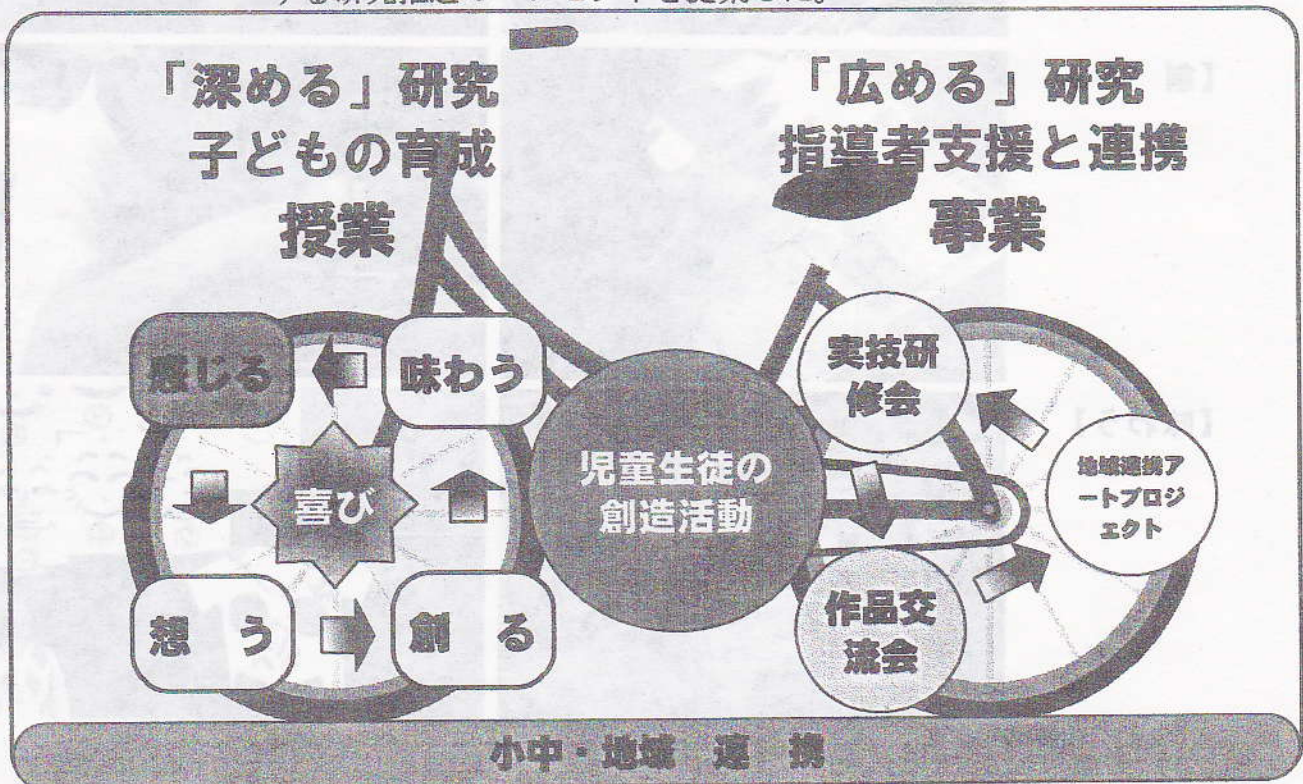
「深める」研究と「広める」研究

「『わたし』の喜び」あふれる造形活動

研究部長 中島圭介

1 はじめに 小学校は平成23年度、中学校は平成24年度から新学習指導要領に基づいた新しい教科書での授業が完全実施された。授業実践の成果と課題は、次期改訂時の図画工作科及び美術科の必修教科としての存続に影響する意識をもつことが大切である。このことを踏まえ、第64回全道造形教育研究大会上川・旭川大会では、これからの造形教育を推進する上での方向性を示す必要があると考えた。

そこで、平成23年度より、旭川市教育研究会図工・美術部は上川造形教育研究会と連携し、研究内容の共有化を図った。広域的な授業実践の交流や事業の共同開催などに取り組み、上川管内全体で造形教育を活性化させることがねらいである。また、義務教育9年間を見通した小中学校の連携を基盤とする研究組織の改善を図った。さらに、日常の授業改善を考える「深める」研究と、指導者の支援や造形教育に関わる他機関と連携する「広める」研究を自転車の両輪と同様に、バランスよく実践する研究推進のコンセプトを提案した。



深める研究

「深める研究」は、学習過程における児童生徒の「喜び」の姿を大切にした授業づくりを通して、目の前の子どもたちの力を育てる研究である。まず、児童生徒の実態を的確にとらえ、育てたい力を明確にすることが大切である。次に、育てたい力を伸ばすためには、適切な題材や教材の開発を考え、効果的な手立てを準備することが必要である。最後に、個に応じた幅広い指導や支援に着目し、指導と評価を一体的にとらえて児童生徒の成長を見取ることが重要である。このサイクルを繰り返しながら学習活動を展開し、造形活動の「喜び」を児童生徒に伝えることが大切である。

《学習過程》

【感じる】



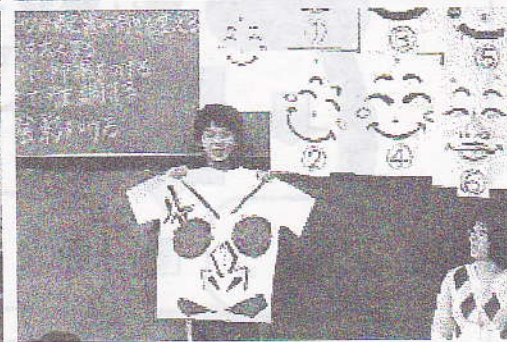
【想う】



【創る】



【味わう】



広める研究

「広める研究」は、主に3つの事業を柱としている研究である。1つ目は、図画工作科や美術科の指導者としての専門的な資質や技能を磨く**研修事業**である。2つ目は、図画工作科を専門としていない小学校教員や免許外で美術科の授業を教えざるを得ない中学校教員の**支援事業**である。3つ目は、北海道教育大学旭川校や道立旭川美術館、中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館などとともに**造形活動を通して地域の活性化や社会貢献などにつなげる地域連携事業**である。

3つの事業は、独立して企画・実施されているが、各事業の目的やねらいは、常に連動しながら相乗効果を図りつつ企画・運営が行われている。これらの3つの事業を研究と位置付け、積極的に職場の同僚や保護者、地域・社会へ造形教育の意義や必要性を啓蒙し、理解を得ることが大切である。

《研修事業》



《支援事業》



《連携事業》



「『わたし』の喜び」あふれる造形活動

大会テーマである「『わたし』の喜び」あふれる造形活動には、「子どもたち一人一人が造形活動を通して得た『喜び』を糧として、豊かに生きる力となるように」という願いが込められている。

わたし

造形活動の主体は児童生徒である。授業の中で一人一人が主役になることができるのが図画工作・美術科の特色である。「わたし」の想いを大切にしたい学習プロセスや個に応じた指導の手立てを考えることが大切である。

喜び

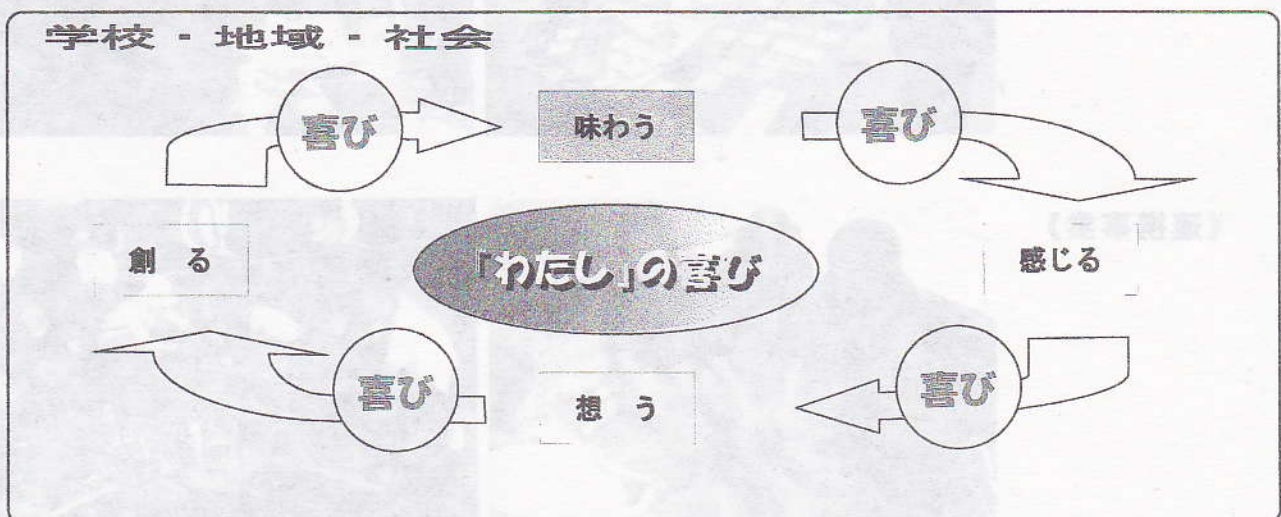
「喜び」とは、児童生徒が造形活動の中で、時間を忘れて創造的な活動に没頭したり、浸ったりする姿や児童生徒が他者に伝えたくて発信する感動の言葉や文字を意味する。単に楽しいということだけではなく、新たな気付きや発見に驚いたり、試行錯誤しながら悩んだり、集中して制作に取り組んだりする行為や言動等も含めて喜びにとらえる。

あふれる

心の中で生まれた喜びが、こんこんと湧き出る泉のように絶えず喜びが「あふれ」、喜びを実感することができる授業を提供することにより、満足感や達成感を得て、自信となり、豊かな自己形成をすることができる。

造形活動

造形教育ではなく、「造形活動」と設定しているのは、主役である児童生徒の立場に寄り添い、児童生徒の思考や行為、活動プロセスを大切にしたいという意図の表れである。



3 研究主題

創造の喜びを実感できる造形活動をめざして

4 主題設定の理由

前回(第59回全道造形教育研究大会上川・旭川)大会テーマは「身体で感じ・心はずませ・創造する喜び」、研究主題は『「いま・ここで」「つなげる」造形教育を求めて』であった。また、学習指導要領の改訂では「生きる力」を育む重要性が継承され、基礎基本の確実な習得とそれを活用して課題を解決する力の育成がうたわれている。造形教育においては、改訂の趣旨を踏まえ、表現及び鑑賞の活動を通して、児童生徒が感性を働かせながら、作り出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことが示されている。

前回大会や学習指導要領の改訂の趣旨、造形教育のねらいなどを踏まえ、将来の上川管内及び旭川市の造形教育のビジョンを具体的に示したい。

創造の喜び

創造とは、表現と鑑賞の2領域を含む創造活動を意図している。表現や鑑賞の活動を通して、新しい意味(価値)を見いだすプロセスや瞬間のことである。子どもたち個々によって、その場面は様々であり、個に応じた創造が起きて初めて、子どもたちは自分なりの感じ方・考え方・やり方を強く意識したり実感したりすると言える。創造活動を通して得た「喜び」が、明日を生きる「わたし」を創るのである。

実感できる

児童生徒が「図工や美術の時間が楽しい!」「教科として必要だ」「学んだことが生活の中で役に立った」などと理解するためには、表現及び鑑賞の学習過程の中で、**絶えず「喜び」を実感することができる授業を展開し、喜びの実体験が蓄積していくことが大切である。**

造形活動

本研究では、**児童生徒一人一人の造形的な創造活動のプロセスを重視**する。そのためには、学級や個々の児童生徒の実態を的確にとらえることが必要である。題材を通して身に付けたい基礎的な能力や育てたい力を明確化するとともに、題材構成を工夫して展開し、発達段階に応じた効果的な手立てや指導に生かす評価を工夫することが大切である。児童生徒の心の窓を開放させ、ひらめきや可能性を引き出したり、試行錯誤に挑む勇気をもたせたりするなどの創造のポケットをたくさん作り出すアプローチを大切にしたい研究に取り組むことが重要である。

5 目指す児童生徒像

豊かに感じ、想いを膨らませ、創る喜びを味わう子

6 研究仮説

個々の児童生徒に対して身に付けたい基礎的能力(学習指導要領)と育てたい力(旭川市教研・上造研で設定)を明確にし、「感じる」・「想う」・「創る」・「味わう」の過程を効果的に位置付け、工夫して展開するとともに、発達段階に応じた効果的な手立てを準備したり、指導に生かす評価を工夫したりすることにより、豊かに感じ、想いを膨らませ、創る喜びを味わう子を育成することができるだろう。

7 研究内容

(1)身に付けたい基礎的能力と育てたい力の明確化

①身に付けたい基礎的能力の明確化

※「基礎的能力」とは、学習指導要領に記述されている能力を意図する。

②育てたい力の明確化

※「育てたい力」とは、児童生徒自らが能力を獲得していく「自ら培う力」を意図する。

(2)題材構成の工夫

①各学習過程のおさえ

・「感じる」過程、「想う」過程、「創る」過程、「味わう」過程

②題材構成

・[感じる・想う・創る・味わう]の組合せ方や順序を工夫した題材構成

(3)発達段階に応じた効果的な手立ての工夫

①能力や技能を引き出す手立て

・「感じる」、「想う」、「創る」、「味わう」手立て

(4)指導に生かす評価の工夫

①自己評価カードの工夫

※児童生徒の授業評価を授業改善や指導につなげる

②評価の尺度と指導の手立ての活用(旭川市教育委員会編集)

8 研究計画

年度	年次	研究内容(研究の柱)	全道造形大会
23年度	1年次	研究理論の構築(主に「感じる」、「想う」の学習過程)	(全国)札幌大会
24年度	2年次	研究理論の検証(主に「創る」、「味わう」の学習過程)	十勝・帯広大会
25年度	3年次	研究理論の検証(4つの学習過程) プレ研	石狩大会
26年度	4年次	研究のまとめ 研究大会で発表	上川・旭川大会

9 研究組織 1 組織づくりの工夫

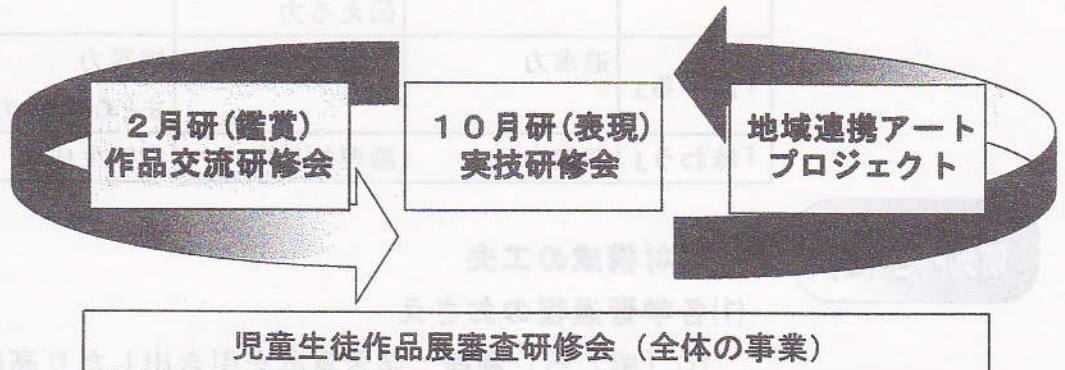
(1)小中連携を意識した地区ごとのブロック制

平成22年度までの研究組織は、校種別・領域別の部会による研究組織であった。自分の興味・関心のある部会を選べるメリットはあったが、距離が遠く集まりにくいというデメリットもあった。

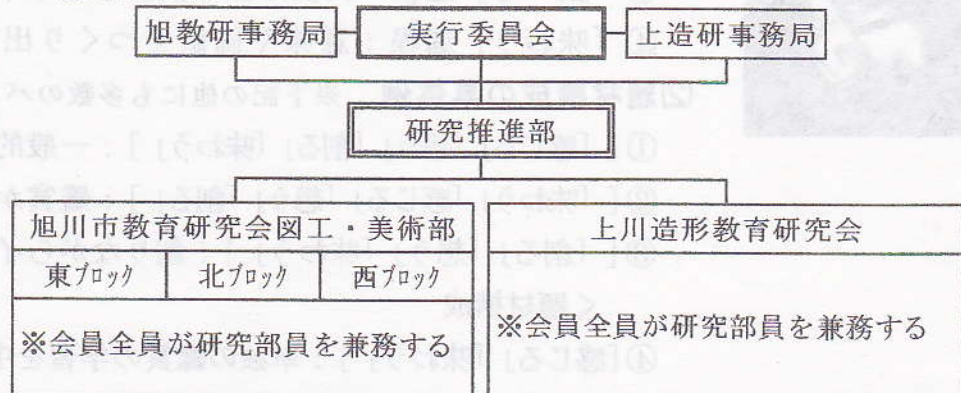
そこで、新研究を考えるに当たり、学習指導要領に重要性がうたわれていた小中連携を基盤とすることができるよう、旭川市内を地域ごとに大きく3つのブロックに分け、校区内の小中学校が集まることのできる研究組織に改めた。小中の活発な授業交流が期待できるとともに、会場への移動距離を縮め、集まりやすく機能的な環境づくりができると考えた。

(2)研究運営の分担制とローテーション制

年度ごと、3つ(東・北・西)のブロックに下記の3事業を割り振り、各ブロックごとに事業内容を主体的に企画・運営することができるシステムをつくった。また、各事業を年度ごとにローテーションすることで、全ての部員が研究や各事業を体験しながら幅広く学ぶことのできる仕組みに切り替えた。



2 研究組織図



「深める」研究

「深める」研究は、授業を通して、創造の喜びを実感できる造形活動を目指すために、下記の4つの内容について研究する。

研究内容(1)

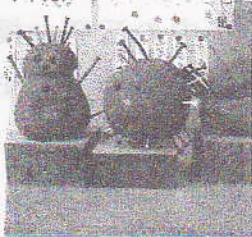
1 身に付けたい基礎的能力と育てたい力の明確化

(1)身に付けたい基礎的能力の明確化

・「基礎的能力」とは、学習指導要領に記述されている能力を意図する。

(2)育てたい力の明確化

・「育てたい力」とは、児童生徒自らが能力を獲得していく力を意図する。



【各学習過程と評価の観点における育てたい力の関連図】

	関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
「感じる」	観る力	特徴を捉える力	色彩感覚力	感じ取る力 美的感覚力
「想う」	着想力	発想・想像力 構想力 伝える力	構成力 創造力	
「創る」	追求力	選択力	描写力 まとめ上げの力	
「味わう」	洞察力	論理的思考力	意味生成力	解釈力

研究内容(2)

2 題材構成の工夫

(1)各学習過程のおさえ

- ①「感じる」過程：学習意欲を引き出したり高めたりする過程
- ②「想う」過程：イメージを深める過程
- ③「創る」過程：表現方法や技法を追求する過程
- ④「味わう」過程：意味や価値をつくり出す過程

(2)題材構成の具体例 ※下記の他にも多数のバリエーション有

- ①[「感じる」「想う」「創る」「味わう」]：一般的な題材構成
- ②[「味わう」「感じる」「想う」「創る」]：鑑賞から始まる題材構成
- ③[「創る」「想う」「味わう」]：創りながらイメージが膨らんでいく題材構成
- ④[「感じる」「味わう」]：単独の鑑賞の学習を中心とした題材構成



研究内容(3)

3 発達段階に応じた効果的な手立ての工夫

(1)各過程と主な手立ての例



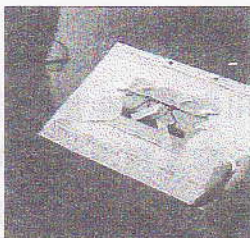
	具体的な手立て
「感じる」過程	(1)身体で感じ取ることのできる素材や教材の体験 (2)知的好奇心を揺さぶる題材との出会わせ方(演出) (3)材料・場所・時間などの学習環境の工夫 (4)地域素材の教材化や人材活用
「想う」過程	(1)生活経験や知識(他教科)のつながり (2)主題設定の明確化 (3)学習プリント (4)交流活動の設定 (5)ICTの活用
「創る」過程	(1)制作の見通しのもたせ方 (2)表現方法や技法の選択 (3)材料や用具の扱い方
「味わう」過程	(1)鑑賞場面の設定 (2)学習プリントの工夫(思考の記録) (3)自己評価や他者評価 (4)日常生活との関連付け

研究内容(4)

4 指導に生かす評価の工夫

(1)自己評価カードの工夫(生徒の授業評価を授業改善や指導につなげる)

- ・自己評価は毎時行うのではなく、育てたい力と主に関わる学習過程のまとめ段階で実施する。下記の4観点について回答してもらい、学習状況の把握や次時の指導の手立てにつなげていく。※①～④の各項目は、授業内容に合わせて実施



①授業が楽しかったか？	はい いいえ
(何が楽しかった：	
②授業を受けて知識・技能が身に付いたと感じているか？	はい いいえ
③知識・技能を生かして作品づくりをすることができたか？	はい いいえ
④困っていることやアドバイスしてほしいことがあれば書いてください	
[]

(2)評価の尺度と指導の手立ての活用(旭川市教育委員会編集)

- ・本時の展開に、育てたい力と関連のある重点化した1観点について目標(評価規準)とし、具体的場面では評価基準を記述する。

旭川市教育委員会指導課 ㊤旭川市内小中学校向けホームページ
 HP : www-in.sidositu.asahikawa-hkd.ed.jp
 小学校指導と評価の手引き(図画工作), 中学校指導と評価の手引き(美術)

「広める」研究

「広める」研究は、3つの研修活動と1つのプロジェクトを研修事業、支援事業、連携事業の3つの事業に位置付け、創造の喜びを実感できる造形活動をめざすために、3つの内容について研究する。

事業内容

1 実技研修会（研修・支援事業）

実際に作品制作を通して、指導のポイントを学んだり、技能を高めたりする。また、図工や美術の指導で悩みを抱えていたり、技術的な困難さを感じていたりする教員に対する学びの場を提供する。参加者のニーズをとらえ、部員やOBが講師となって研修会を開催し、指導力の向上に励んだり、造形活動の楽しさや価値に気付いてもらったりする場にしたい。



2 作品交流研修会（研修・支援事業）

持ち寄った作品の交流をしながら、題材や児童生徒の活動の様子、作品に対する思いなどから作品の見方や考え方を学ぶ。また、指導上の悩みなどの交流を通して、具体的な指導方法や言葉がけなどについて参加者からアドバイスしてもらおう。児童生徒理解や題材の開発、興味関心を引き出すアイデアなどを学び、日常実践や目の前の子どもたちへの指導に生かすことのできる場にしたい。



3 児童生徒作品展審査研修会（研修・支援事業）

旭川市教育研究会図工・美術部が主催する旭川市児童生徒作品展の作品審査を通して、各学校の実践を交流し、審査規準を参考にしながら、児童生徒理解や作品の見方、指導の工夫について研修を深めている。研修会で学んだことを各学校にもち帰り、日常実践に生かしたり、各学校の同僚に還流したりする場にしたい。



4 旭川地域連携アートプロジェクト（研修・連携事業）

旭川市を中心に上川管内にある造形教育に関係する機関が連携することで、知識技能、実施場所、作品、企画、スタッフ、プログラム等を相互に提供し、参加者それぞれの目的に沿った学びや事業をより有効に展開できる環境を創造するとともに、地域の造形教育の発展推進を期待して発足している。現在、6つの組織が連携し合い、4つのプロジェクトの企画・運営を行っている。



研究内容(1)

1 指導力の向上と支援の工夫

(1)交流の場の設定

実技研修会と作品交流研修会は、市内の小中学校に研修会の案内文書を配布し、誰でも参加することができる機会や交流の場を提供している。特に小学校の教員が参加しやすいように土曜日開催で計画を立て、参加費は無料である。

また、児童生徒作品展審査研修会では、作品を応募した学校は、代表者が審査員として参加するシステムになっている。研修会では、各学年ごとに分れて審査を行う。作品審査を通して、作品の見方や子どもの思考などについて研修を深めている。

(2)プログラム化の工夫

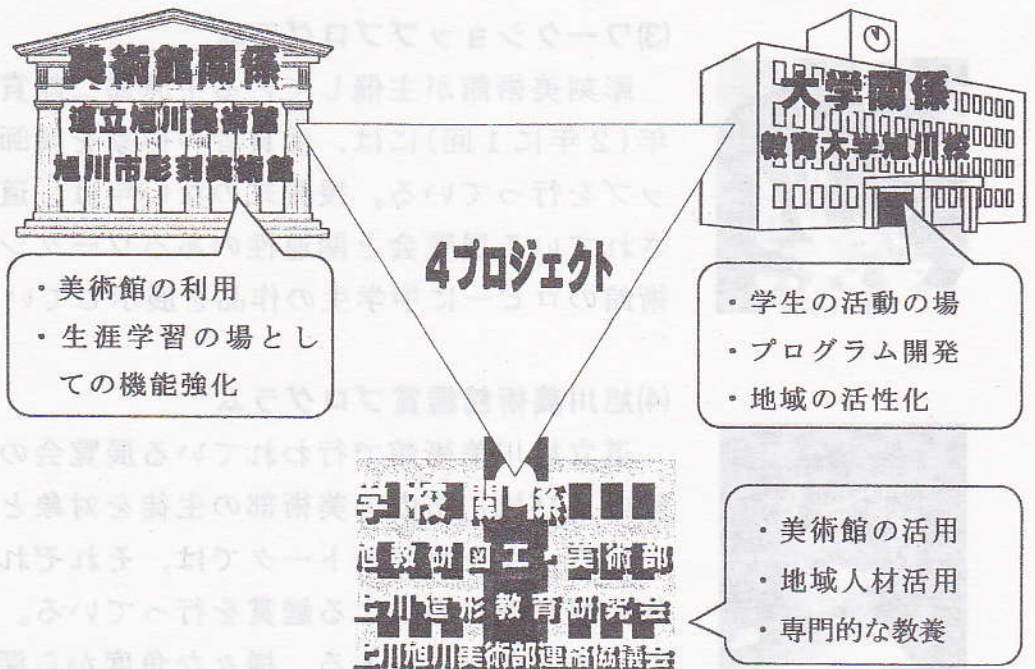
各研修会やプロジェクトの企画・運営は、担当ブロックに委ねられている。立案した資料や成果と課題は文書化して保存することを基本としている。毎年、各事業の担当はローテーションするので、担当者が変わっても事業が円滑に推進できるように、各ブロックの引き継ぎをプログラム化する必要がある。

研究内容(2)

2 地域の造形教育を活性化する工夫

(1)造形教育に関わる関係機関や組織との連携

平等な立場を保ちながら、お互いがもつ知識や経験、施設や設備、アイデアや企画などを提供し合い、単発の企画で終わるのではなく、継続可能な活動として機能する組織を目指している。



(2)ワーキンググループ化 (WG)

組織の課題は、お互いの日常業務が忙しく、集まるのが困難な点である。そこで、会議毎にスタッフ全員が集まるのではなく、プロジェクトごとの小委員会(WG)をつくった。企画や運営を委任し、小回りのきく組織づくりを目指している。

研究内容(3)

3 4 プロジェクトのプログラム内容の工夫

(1)造形まつりプログラム



道立旭川美術館を会場に、7月最週末の土日(夏季休業中)に園児・小学生・中学生とその保護者を対象にしたワークショップイベントを開催している。10種類程度の工作を中心としたワークショップブースを準備することで、参加した子どもたちは興味のあるブースを自由に選んで参加することができる。内容や運営システムを共同で開発している。

(2)彫刻巡回展出前授業プログラム



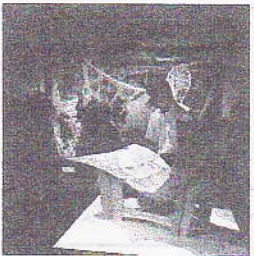
旭川市彫刻美術館は、市内の小中学校に彫刻作品の貸出事業を行っている。出前授業では、五感を働かせながら彫刻作品に触れて鑑賞する「体感による鑑賞」と、対話形式で彫刻作品を鑑賞する「対話による鑑賞」の2部構成の授業を実施している。作品の楽しみ方や見方を学ぶ機会となるようなプログラムを開発している。

(3)ワークショッププログラム



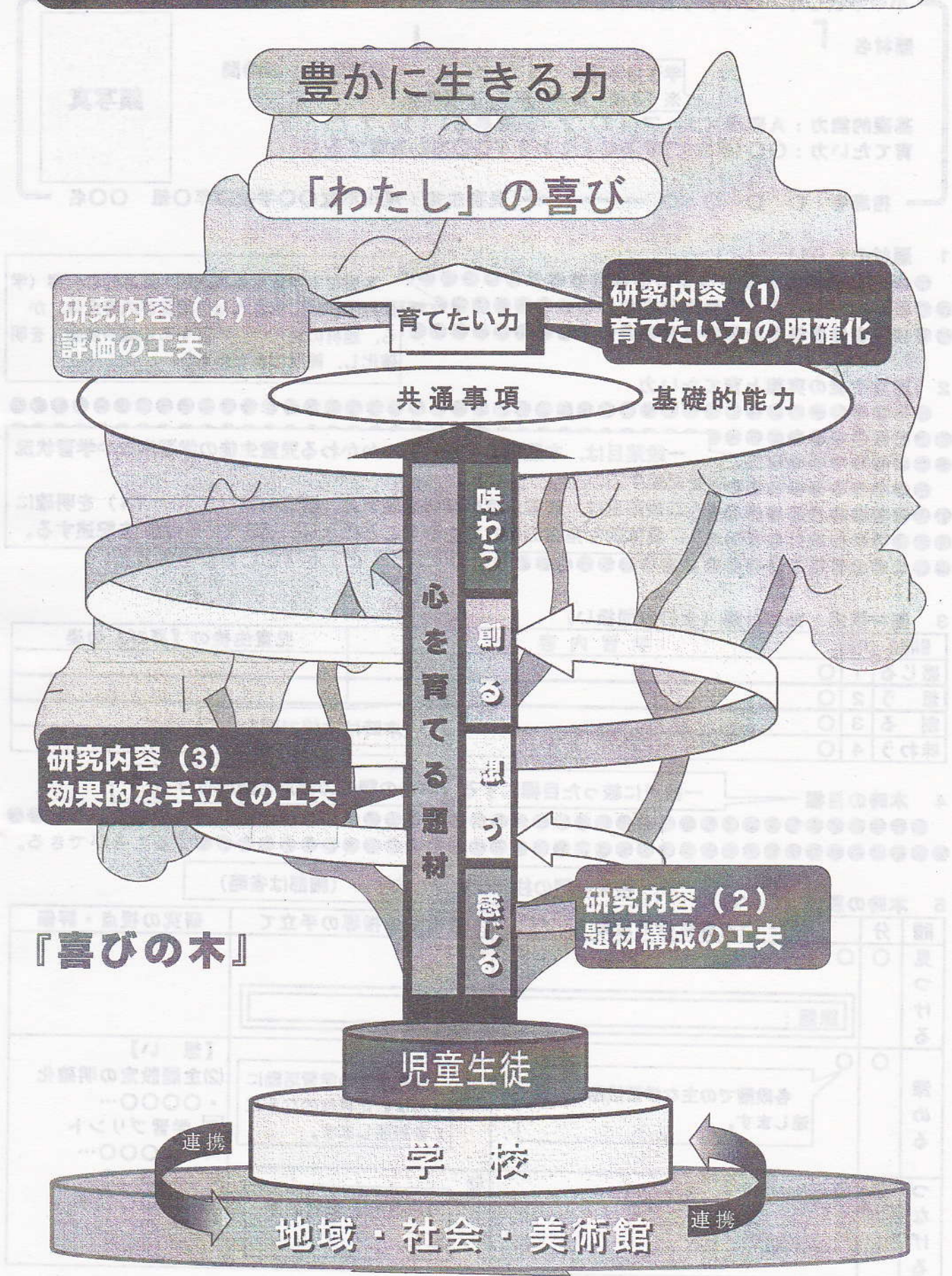
彫刻美術館が主催している中原悌二郎賞の授賞式が行われる年(2年に1回)には、受賞者の作家を講師に招いてワークショップを行っている。授賞式のない年は、道立旭川美術館で開催されている展覧会と関連性のあるワークショップを企画し、美術館のロビーに中学生の作品を展示している。

(4)旭川美術館鑑賞プログラム



道立旭川美術館で行われている展覧会の作品を活用し、上川管内及び旭川市内の美術部の生徒を対象とした鑑賞会を実施している。ギャラリートークでは、それぞれの専門性を生かし、作品解説や対話による鑑賞を行っている。また、学生が企画したアートゲームもある。様々な角度から深く楽しく鑑賞することのできるプログラム開発をしている。

研究の全体構造図



『喜びの木』

指導略案の見方(読み方)

小中学校〇年 〇〇科学習指導略案

題材名 「
」

学習指導要領

※「基礎・基本のおさえ」を意味

配当時間 〇時間

顔写真

基礎的能力：A表現(1)ア(3)ア〔共通事項〕(1)ア

育てたい力：〇〇(手立て)することにより『〇〇力』を育てる

指導者：〇 〇 〇 〇

児童生徒：旭川市立〇〇学校〇年〇組 〇〇名

1 題材のねらい

本題材で学習する基礎的・基本的な内容(学習指導要領に示された目標及び内容全体)から、題材のねらい(学習する意義や価値)を明確化し、簡潔にまとめる。

2 児童生徒の実態と育てたい力

一段落目は、本題材の学習内容にかかわる児童生徒の学習意欲や学習状況を記述する。

二段落目は、児童生徒の実態を踏まえ、研究内容(1)～(4)を明確にし、具体的な指導の手立てを取ることににより、『育てたい力』を記述する。

〇〇することにより『〇〇力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画(全〇時間扱い)

題材構成	時数	学習内容	児童生徒の『喜び』の姿
感じる	1 〇		
想う	2 〇		
創る	3 〇		
味わう	4 〇		

本時は太線で囲む

4 本時の目標

一観点に絞った目標にする(本時の評価の観点と関連付ける)

することができる。

5 本時の展開(〇/〇)

授業展開の柱だけ記述します。(細部は省略)

贈分	〇児童生徒の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	〇	◎	
深める	〇	◎	【想い】 (2)主題設定の明確化 ・〇〇〇〇… 発 学習プリント A: 〇〇〇〇… B: 〇〇〇〇… □: 〇〇〇〇… □: 〇〇〇〇…
つなげる	〇	◎	

課題:

各段階での主な学習活動のみ記述します。

児童生徒の学習活動にリンクした具体的な手立てを記述します。

評価基準と指導の手立て

指導案



「楽しかった運動会」 旭川市立末広北小学校 4年 太田 愛菜

(平成 25 年度旭川市児童生徒作品展 旭川市長賞)

題材名 「虫の世界にレッツゴー！」

配当時間 3時間



育てたい力：感動体験を味わわせることにより『感じ取る力』を育てる

指導者：生駒 知絵梨 幼児：旭川大学附属幼稚園 年長さくらんぼA組23名

1 題材のねらい

本題材は、普段の園外活動で子どもたちが一番関心をもっている身近な虫を題材としたものである。子どもたちが虫の空想の世界に入り、自分になってみたい虫や自然を表現する楽しさや、一人一人の作品が合わさってできる喜びを感じ取らせる造形活動である。日常の保育の中で、園庭や公園で虫取りをしたことや、保育室で虫を飼って世話をする楽しい経験が、作品づくりへの思いを高め、意欲や関心へとつながると考える。表現方法を規制せず、絵の具だけでなく、お菓子などの空き容器や木の実などの自然素材を子どもに選択させ、自分なりの表現方法を尊重したい。子どもたちが造形活動を通して、個々の取り組みを超え、互いの作品のよさに気付き、友だちと話し合ったり、一緒に作ったりしてイメージが膨らんでいく楽しさやわくわく感を味わわせたい。そのため、作品づくりへの子どものイメージや思いをたくさん受け止め、作品づくりの過程を重視した共感する姿勢を指導上重視したい。

2 幼児の実態と育てたい力

本園の子どもたちは、普段から自由遊び中に廃材を使って好きなものを作って遊ぶ姿が見られる。初めのうちは、箱と箱をつなげるなど単純な作品が多かったが、少しずつ多様な材料で、自分なりに工夫して作れるようになった。しかし、自分のイメージをもったり、意欲的に作ったり、絵を描いたりすることに消極的な子もいる。作品づくりでは、上手な作品ではなく一人一人の思いがたくさんつまった作品づくりをしてほしいことを伝えることで、自分の作品に自信をもたせて前向きに取り組む力を培う。また、たくさんの感動体験を味わわせることにより『感じ取る力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画（全3時間扱い）

題材構成	時数	学習内容	幼児の『喜び』の姿
感じる		○日常の外の活動でたくさんの自然に触れて楽しく遊ぶ。	・草や木に触ったり、生き物を見つけたりして楽しむ姿
想う 創る①	2	○虫を見つけたり捕まえたりした体験から虫の世界を想像する。ボディペインティングで虫への変身遊びをする。	・楽しい感動体験を思い出し、表現したいことや表現方法を考える姿
創る② (本時) 味わう	1	○多様な素材を生かして虫の世界を作る。 ○作品を見て、友だちの思いやよさを交流する。 ○作ったものになりきってリズム遊びで表現する。	・友達と楽しく作品づくりに取り組み、思いを工夫して表現する姿 ・思いを交流し満足感を味わう姿

4 本時の目標

○虫の世界を想像し、自分なりの表現方法で取り組み、表現することの楽しさを味わうことができる。

5 本時の展開（3／3）

段階	分	○幼児の活動	◎保育者の指導の手立て	研究の視点・留意点
見つける	5	○虫の世界を想像する。	◎虫の世界をイメージできる話をする。	
課題：みんなで楽しい虫の世界をつくろう				
深める	35	○絵の具、廃材や自然素材の中から材料を選択し、想像したものを描いたり作ったりする。	◎自由に材料を選択させる。 ◎子どもの思いに共感し活動を深める。	【創る】 ・思いをもって制作させる。
つなげる	5	○作品への思いを交流し合う。 ○友達の作品を見て、よさを感じる。 ○作ったものになりきって、リズム遊びで表現する。	◎交流の中で、作品の思いやよさが伝えられるよう説明を支援する。	・表現する楽しさを味わわせる。

題材名 「海の世界にレッツゴー！」

配当時間 3時間



育てたい力：感動体験を味わわせることにより『感じ取る力』を育てる

指導者：阿部 清 香 ——— 幼児：旭川大学附属幼稚園 年長さくらんぼB組23名

1 題材のねらい

子どもたちは、広い海や川に入って遊んだ経験は少ないが水遊びは大好きである。そして、水の中で暮らす魚などの生き物にはとても興味をもっている。水の中の生き物と一緒に遊びたいという思いを楽しく表現させたいという願いから本題材を設定した。子どもたちが空想の世界に入り、自分になりたいものを表現する楽しさや、一人一人の作品が合わさってできたときの喜びを味わわせたい。そのために、園外保育等で、水の中に棲む生き物だけでなく、水の流れる音や水の美しさなどにも気付かせていきたい。また、海や川の生き物を分けずに、水の中で暮らす生き物として大きくとらえ、自由な発想で自分なりの表現方法を用いて制作させたい。また、絵の具だけでなく、お菓子などの空き容器、木の実などの自然素材を子どもたちに選択させ自由に表現させたい。子どもたちが造形活動を通して、個々の取り組みを超え、互いの作品のよさに気付き、友だちと話し合ったり、一緒に作ったりしてイメージが膨らんでいく楽しさやわくわく感を味わわせたい。そのため、子どものイメージや思いをたくさん受け止め、作品づくりの過程を重視した共感する姿勢を指導上重視したい。

2 幼児の実態と育てたい力

本園の子どもたちは、普段から自由遊び中に廃材を使って好きなものを作って遊ぶ姿が見られる。初めのうちは、箱と箱をつなげるなど単純な作品が多かったが、少しずつ多様な材料で、自分なりに工夫して作れるようになった。しかし、自分のイメージをもったり、意欲的に作ったり、絵を描いたりすることに消極的な子もいる。作品づくりでは、上手な作品ではなく一人一人の思いがたくさんつまった作品づくりをしてほしいことを伝えることで、自分の作品に自信をもたせ前向きに取り組む力を培う。また、たくさんの感動体験を味わわせることにより『感じ取る力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画（全3時間扱い）

題材構成	時数	学習内容	幼児の『喜び』の姿
感じる		○日常の外の活動でたくさんの自然に触れて楽しく遊ぶ。	・小川の水に触ったり、生き物を見つけたりする楽しい姿
想う 創る①	2	○小川の生き物を見つけたり捕まえたりした体験から海の世界を想像する。ボディペインティングで海の生き物に変身する遊びをする。	・楽しい感動体験を思いだし、表現したいことや表現方法を考える姿
創る② (本時) 味わう	1	○多様な素材を生かして海の世界を作る。 ○作品を見て、友だちの思いやよさを交流する。 ○作ったものになりきってリズム遊びで表現する。	・友達と楽しく作品づくりに取り組み、思いを工夫して表現する姿 ・思いを交流し満足感を味わう姿

4 本時の目標

○海の世界を想像し、自分なりの表現方法で取り組み、表現することの楽しさを味わうことができる。

5 本時の展開（3/3）

階	分	○幼児の活動	◎保育者の指導の手立て	研究の視点・留意点
見つける	5	○海の世界を想像する。	◎海の世界をイメージできる話をする。	
課題：みんなで楽しい海の世界をつくろう				
深める	35	○絵の具や廃材や自然素材の中から材料を選択し、想像したものを描いたり作ったりする。	◎自由に材料を選択させる。 ◎子どもの思いに共感し活動を深める。	【創る】 ・思いをもって制作させる。
つなげる	5	○作品への思いを交流し合う。 ○海の世界を見てよさを感じる。 ○作ったものになりきってリズム遊びで表現する。	◎交流の中で、作品の思いやよさが伝えられるよう説明を支援する。	・表現する楽しさを味わわせる。

題材名 「あったらいいな こんなすいぞくかん」

配当時間 8時間



育てたい力：素材や技法の体験により『空想する楽しさと創る喜び』を育てる

指導者：井手 愛 幼児：くりの木幼稚園 きりん組 26名

1 題材のねらい

子ども自身がイメージを膨らませて自分の思い描く魚をつくり、クラス全員で水族館をつくり出す造形活動である。自分で考え、つくり出したものができ上がった達成感や素材に触れる喜びを感じることができるようにすることがねらいである。

2 幼児の実態と育てたい力

年長組では入園当初から発達段階に合わせて様々な素材や道具を使い、たくさんの制作活動を行ってきた。人工物では廃材のストローや紙皿・エアパッキン・毛糸・牛乳パック等を用い、自然物では葉や木の枝・木の実等、様々な特色ある素材に実際に触れ、立体的なものをつくることを楽しみ味わっている。また、クレヨン・絵の具・サインペン・はさみ等の道具を使い、ちぎり絵・はじき絵・にじみ絵・ひっかき絵等、様々な技法を用いて、道具の様々な使い方があることを体験している。今までの制作活動を通して学んだ素材や技法の体験により『空想する楽しさと創る喜び』を育てたい。

3 題材構成と指導計画（全8時間扱い）

題材構成	時数	学習内容	幼児の『喜び』の姿
創る	1	○構成遊びで様々な形を組み合わせて自分のつくりたいものをつくる。	・様々な形を組み合わせ、新たな形をつくり出そうと考える姿
感じる	1	○自然物に触れ、拾って楽しむ。	・自然に触れて楽しむ姿
創る	1	○自分で拾った自然物や廃材を使ってつくりたいものをつくる。	・自分で拾った自然物や廃材から様々なものをつくる姿
想う 感じる	3	○絵本、写真、映像等から水中の様子や生物を知り、園外保育で川で水に触れ、水の世界を感じる。	・初めて知る生物を実際に見たり触れる姿
創る	1	○見てみたい水族館や水の世界を皆でつくる。	・みんなで1つのものをつくる姿
創る 味わう (本時)	1	○自然物や廃材等を使って、今まで膨らませた空想や経験を基につくり、見てみたい生き物をつくる。	・経験や感じたことをみんなと一緒に思い出し、様々な材料を使って、1つのものをつくり出す姿

4 本時の目標

○身近にある素材や自然の物を使って空想した生き物を作り出す楽しさを感じ、一つの大きな水族館をつくることができる。

5 本時の展開（8/8）

段階	分	○幼児の活動	◎保育者の指導の手立て	研究の視点・留意点
見つける	5	○保育者の話を聞き、想起する。 課題：見てみたい生き物をつくらう	◎今までの体験を思い出せるような話をする。	
深める	30	○廃材や自然物などの様々な素材を使って、生き物をつくる。	◎つくりたいもののイメージを膨らませることができるよう絵本や写真などを提示する。	【創る】 ・自分のつくりたいイメージを大切にさせる。 ・達成感を味わえるようにする。
つなげる	25	○つくった生き物を土台の海に貼り合わせる。	◎海に見立てた土台を用意し、みんなの作品を紹介する。	

題材名 「ぼくたち わたしたちの みらいタウン」

配当時間 9時間



育てたい力：素材や技法の体験により『空想する楽しさと創る喜び』を育てる

指導者：川 森 恵 未

幼児：くりの木幼稚園 ひつじ組 26名

1 題材のねらい

様々な素材を使って一人一人が自分の街にあったらいいなと思うものを作り、クラス全員で自分達の住んでみたい街を作り出す造形活動である。テーマを設定し、様々な素材を用いてみんなで作ったものを合わせることで、大きなものができる喜びを感じることができるようになることがねらいである。

2 幼児の実態と育てたい力

年長組では入園当初から発達段階に合わせて様々な素材や道具を使い、たくさんの制作活動を行ってきた。家庭で使わなくなった廃材であるエアパッキン・紙皿・ティッシュ箱・ペットボトル等や自然物の葉・花・松ぼっくり等を使い様々なものを表現してきている。これらの体験を通して自分の中のイメージを膨らませ、「こんな物を作りたい」という意欲をもち、工夫しながら取り組むことができるようになってきている。今までの制作活動を通して学んだ素材や技法の体験により『空想する楽しさと創る喜び』を育てたい。

3 題材構成と指導計画（全9時間扱い）

題材構成	時数	学習内容	幼児の『喜び』の姿
想 創 る	4	○動物園で触れた体験を粘土を使って表現する。 ○構成遊びで様々な形を組み合わせて、自分の作りたいものをつくる。 ○自然物や廃材を使って表現する。	・自分が関心をもつ動物をつくる姿 ・様々な形を組み合わせ、自分の作りたいものをつくる姿 ・素材から想像し、表現する姿
感じる	3	○園外保育で自分の住んでいる街を見て感じる。 ○絵本、写真、映像等で実際の街にあるものを知る。	・普段生活している街の全体を見て新たな発見を楽しむ姿
創 る	1	○住んでみたい街の土台となる風景をつくる。	・友達と空想の街の風景をつくる姿
創 る 味 わ う (本時)	1	○自然物や素材を使い、体験からイメージを膨らませ、自分の街にあったらいいなと思うものをつくる。 ○完成した街を鑑賞する。	・素材を工夫して使い、表現する姿 ・みんなで作り上げた作品を見て完成した喜びや達成感を感じる姿

4 本時の目標

○紙粘土や身近にある素材・自然物を使って想像を膨らませ、新たなものを創り出す楽しみを味わうとともに、みんなの作品を集めて一つのものを作り上げる達成感を味わうことができる。

5 本時の展開（9/9）

階 分	○幼児の活動	◎保育者の指導の手立て	研究の視点・留意点
見 つ け る	○保育者の話を聞き、想起する。	◎今までの体験や興味のもてる話をする。	
課題：自分たちの街にあったらいいなと思うものをつくらう			
深 め る	○廃材や自然物・紙粘土を使って、自分の街にあったらいいなと思うものをつくる。	◎作りたいもののイメージを膨らませることができるよう絵本や写真を提示する。	【創る】 ・自分の作りたいイメージを大切にする。 ・達成感を味わえるようにする。
つ な げ る	○作ったものを、土台に飾る。	◎街に見立てた土台を用意し、みんなの作品を紹介する。	

題材名 「すなや つちと なかよし(ねんどで)」

配当時間 2時間

基礎的能力：A表現(1)ア、イ [共通事項](1)ア

育てたい力：材料との出会いを工夫し、材料への能動的な働きかけを促すことにより『観る力』を育てる

指導者：小川 雄平

児童：旭川市立東光小学校1年3組 30名



1 題材のねらい

本題材は、土粘土を用いた造形遊びである。多くの教科書で砂遊びと並行して紹介され、どちらかを選択して取り上げるよう編成されているが、粘土遊びの扱いはあまりない。しかし、児童の感覚を刺激する手触りの妙や、硬軟の状態によって多様な働きかけ(行為)が期待できることなど、造形遊びの材料として土粘土がもつ可能性は大きい。

粘土による造形遊びは、材料に体ごと関わって楽しむ低学年児童の発達段階に適している。体全体の感覚を働かせ、思い付いた活動を様々に試し、行きつ戻りつしながら発想と構想を繰り返すことができる粘土の可塑性は、他の材料にはない特徴である。

児童が材料に進んで働きかけ、能動的に関わる場面から、その特徴を様々にとらえ、味わわせたい。この時間を糧とし、次時につながる発想が生まれるよう展開したい。

2 児童の実態と育てたい力

本学級では、休み時間に油粘土を出してきて楽しく遊ぶ児童がいる一方、油粘土の手触りや使用後の手に残る感触を苦手とし、活動に難色を示す児童もいる。

低学年の児童にとって、手などで触りながら材料をとらえる感覚は、造形活動の楽しさに直結しているといわれている。

そこで、本題材では粘土の手触りに抵抗を示す児童へ配慮し、材料との出会いを「粉末状態の土粘土」で始めることにした。さらさらとした土粘土粉末の手触りと、加水による変化の過程を体全体で味わう中で、夢中になって様々な行為を思い付き、材料を試す児童の姿をイメージしている。五感を通して材料への能動的な働きかけを促すことにより『観る力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画(全2時間扱い)

題材構成	時数	学習内容	児童の『喜び』の姿
感じる(本時)	1	○粉末粘土に加水し、土粘土を練り上げながら材料の特徴をとらえる。	・材料と触れ合い、夢中になって手や体全体を動かす姿
想創る	1	○練り上げた大量の粘土を手にし、作り方や表し方に想いを膨らませ、思い思いの形をつくる。	・材料に働きかけ、表し方を見つたり試したりする過程を楽しむ姿

4 本時の目標

○体全体の感覚を働かせて土粘土と触れ合い、材料の特徴を感じ取っている。

《関心・意欲・態度》

5 本時の展開(1/2)

段階	分	○児童の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	25	○材料(粉末粘土)と出会い、粉末粘土の手触りや加水による変化を味わう。 課題：さわるとどんな感じがするのか見つけよう	◎材料の変化や手触りの変化に着目するよう促す。	【感じる】 関 観察、対話 A：体全体で粘土に働きかけ、粘土の状態とその変化を手の感覚を働かせて味わい、材料の特徴に気付いている。 B：体全体で粘土に働きかけ、感覚的に味わっている。
深める	13	○練り上がった粘土に働きかける。	◎材料に対する様々な働きかけ(行為)を紹介し、感想を述べるよう指示する。	□：一緒に泥に触れて感覚を共有し、対面で感想を引き出す。 □：個別に手触りの感覚の変化に着目するよう意識化を促す。
つなげる	7	○集めた大量の粘土から、次時の活動を想起し、見通しをもつ。	◎次時の学習に期待感をもたせる発問をする。 「なにができるかな？」	

題材名 「なにになるかな」

配当時間 2時間



基礎的能力：A表現(1)ア、ウ B鑑賞(1)ア、イ 【共通事項】(1)イ
育てたい力：五感で味わうことができる材料を準備することにより『発想・想像力』を育てる

指導者：西 永 円 児童：旭川市立末広北小学校1年2組21名

1 題材のねらい

本題材は、教室を森の中に見立てた不思議な場所という設定で授業を行う。枝や石、葉っぱなど身近で魅力的な自然素材に出合うことで、素材のもつ形や色の面白さを味わい、並べたり、つないだり、積んだりするなどの行為を手や身体全体を働かせて、つくる喜びや楽しさを味わわせることがねらいである。

2 児童の実態と育てたい力

本学級の児童は、決められたことはしっかりやろうとする意識の高い子が多いが、失敗することを極端に嫌ったり、間違えることを恐れるあまり自分の思いを表現することをためらったりする子が多い。そこで、本授業を通してイメージを膨らませる楽しさや自己表現する喜びを味わわせたい。

本題材は、自分たちで材料を集めたり、周りの様子からイメージをふくらませたりしながら好きな形になるように積んだり、並べたり、組み合わせたりするなどの行為を楽しむことをねらっている。自己表現することに自信がもてない子が多い本学級の児童にとっては、やや難しい題材になることが予想される。そこで題材構成を「感じる」「思う」とし、本授業では子どもたちがインスピレーションを働かせやすい環境（効果音やヒントカードの準備を始め、室内に丸太や小枝、木の葉や小石、木の実などの自然物を配置し、魅力的な材料や場所）を整えることにした。室内でも五感で味わうことができる材料を準備することにより『発想・想像力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画（全2時間扱い）

題材構成	時数	学習内容	児童の『喜び』の姿
感じる	1	○身の回りにある木や石などの材料の形や色を基に素材を集める。	・見て！面白い形を見つけたよ！ ・こんなところに〇〇があった！
思う (本時)	1	○好きな形になるように積んだり、並べたり、組み合わせたりする。	・何に使えるかな？ ・こんなことするとどうなる？

4 本時の目標

○素材の形や色を基に、積んだり、並べたり、組み合わせ等の造形活動を思いつくことができる。

《発想・構想の能力》

5 本時の展開（2/2）

階	分	○児童の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	5	○不思議な空間に迷い込み、素材に出合う。	◎「ここは何の国かな」と問いかけ、不思議な空間に浸ることができるようにする。	
課題：もりのくに(仮)で なにができるかな				
深める	35	○森の国(仮)で素材に浸る。	◎造形遊びに浸れるような環境づくりをする。	【想 う】 発 行動，発言 A：形や色を基に発想を広げながら、造形的な活動を思いついている。 B：活動を思いついたり、面白い形を考えたりにしている。
つなげる	5	○何がつくれたかを発表し、鑑賞する。	◎みんなで作ったものを見合う中で、よさが感じられるような言葉かけをする。	□：効果音やヒントカードからどんなものがあるといいのか気付かせる。 □：材料を自由に並べ、色々な形遊びをさせてみる。

題材名 「アートレポーターになって」

配当時間 3時間

基礎的能力：B鑑賞(1)ア 【共通事項】(1)ア, イ

育てたい力：アートカードを用いた鑑賞場面の設定により『解釈力』を育てる



指導者：栗林友恵

児童：旭川市立神居東小学校5年2組28名

1 題材のねらい

本題材は、カードゲーム的な要素を取り入れながら名画の鑑賞をすることで、児童が主体的に作品の形や色彩・雰囲気などの特徴に気付きながら作品に描かれた場面を想像したり、人物の気持ちや言葉を考えたりするなど、自分なりの「作品解釈」をする鑑賞活動である。作品解釈の交流活動を通して、多様な見方や考え方を広げ、理由を明確にして自分の思いを発表することで、伝え合う力を高めることもねらいとしている。

2 児童の実態と育てたい力

本学級の児童は、表現活動に非常に関心をもって取り組もうとする。作品制作を通して材料と向き合うことで、新たな発想を広げようとする児童が多い。また、友達の作品を鑑賞することにも意欲的に取り組む。話し合いを通して細部を観察したり深く味わったりする機会を与えたい。

そこで題材構成を「感じる」「味わう」とし、鑑賞活動を通して、見方や考え方を広げるとともに、「色・形・リズム」といった鑑賞のための視点を学習しているので、その視点を確かなものにする。また、作品のよさやおもしろさを自由に感じ、考えを伝え合うアートカードを用いた鑑賞場面の設定により『解釈力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画（全3時間扱い）

題材構成	時数	学習内容	児童の『喜び』の姿
感じる	1	○アートカードを用いて推理ゲームを行う。	・「楽しかった」「またやりたい」など、学習活動に興味をもって取り組む声
味わう (本時)	1	○全体で推理ゲームを行い、作品に表されている内容を全体で練り合う。	・熱心に作品について考える姿 ・活発に作品について話し合う姿

4 本時の目標

○名画について、作品の特徴や表現意図などを考え、自分なりの作品紹介にまとめることができる。
《鑑賞の能力》

5 本時の展開（2/3）

階	分	○児童の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	10	○推理ゲームの内容を想起する。	◎推理ゲームの復習をするために、アートカードを提示する。	
課題：作品の特徴や表現意図を考え、レポートにまとめよう				
深める	20	○作品に込められた想いを読み取り、話し合う。	◎作品の特徴や登場人物の気持ち、言葉を考えさせるために、書き込んだ付箋を学習プリントに貼るよう指示する。	【味わう】 鑑 観察、学習プリント A：美術作品をよく見て、作品に表された形や色彩のよさやおもしろさなどを、複数の視点から感じ取っている。 B：美術作品をよく見て、作品全体の印象や細かい部分の特徴をとらえている。
つなげる	15	○話し合いで感じたことや、自分が考えたことを学習プリントに書く。	◎話し合いをもとに自分の考えをまとめることのできる、学習プリントを提示する。	□：班の友達との交流から、考えを広げさせる。 □：色彩の特徴やイメージ、表面の手触りなどを考えさせる。

彫刻巡回展示出前授業

題材名 「旭川の彫刻家展」

～具象と抽象～

配当時間 1時間

基礎的能力：B鑑賞(1) 【共通事項】(1)ア、イ

育てたい力：体感や対話による鑑賞場面の設定により『感じ取る力』や『意味生成の力』を育てる

指導者：渡辺 悟 史 児童：北海道教育大学附属旭川小学校3年1組37名



1 題材のねらい

『旭川の彫刻家展 ～具象と抽象～』とする第3グループの作品は、中原梯二郎賞と関わりの深い木内克や山内壯夫、また、旭川にゆかりの深い加藤顕清など5人の作家の作品で構成されている。具象彫刻と抽象彫刻とがあり、様々な作品の面白さが鑑賞できる。

具象彫刻と抽象彫刻、同じ抽象彫刻同士でも具象性の強い作品と抽象性の強い作品とを比較することで、それぞれの対象のとらえ方や表現方法の違い、作者の制作意図などを考えるきっかけとなり、より鑑賞を深めることができる。板津邦夫の木彫作品からは、素材のもつ温かみを感じることができ、彫刻の鑑賞に興味をもち、進んで鑑賞を楽しむ心を培うとともに、作品に対する見方や考え方を広げることがねらいである。

2 小学生の実態と育てたい力

小学生は1年生から6年生までと発達段階の幅が広く、生活経験や知識の差にも違いがある。そこで、8人程度の小グループを2～4つ作り、体感による鑑賞と対話による鑑賞の2つの鑑賞方法を両方体験できるように実施する。体感による鑑賞は、彫刻作品に直接触れ、作品の質感や重さなどを体感してもらい、児童の発見や発想をもとにナビゲーター(学芸員)を交えて話し合い、作品への興味・関心を深める。また、対話による鑑賞は、彫刻作品をじっくり観察することで、気になる部分や不思議に思う部分を児童同士で共有し、ナビゲーター(学芸員)を交えて話し合うことで作品の見方を広げ、鑑賞する心を養う。体感や対話による鑑賞場面を設定することにより『感じ取る力』と『意味生成の力』を育てたい。

3 本時の目標

○対象の特徴を感じ取り、根拠をもって説明することができる。《鑑賞の能力》

4 本時の展開 (45分)

時分	○児童の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
5	○授業の目的を理解する。	◎オリエンテーション	
見つける	○彫刻と出会う。 課題：触って彫刻の特徴をみつけよう	◎彫刻を毛布に包んでおく。	【味わう】 鑑 観察
深める	○五感を通して考える。	◎五感を意識して観察するよう指示する。	A：形や動き、量感などの特徴を五感で感じ取り、どうしてそう感じたのか根拠をもって説明することができる。 B：彫刻の特徴を五感で感じ取り、説明することができる。 <input type="checkbox"/> ：具体例を提示して考えさせる。 <input type="checkbox"/> ：触れる場所を示して気付かせる。
つなげる	○授業の感想を発表する。	◎体感の感想を聞く。	
2	○移動…ローテーション		
見つける	○彫刻と出会う。 課題：彫刻に込められた意味を考えよう	◎題名を紙で隠した彫刻を囲み、並ぶよう指示する。	【味わう】 鑑 観察
深める	○彫刻の形や動きを見て感じたことをお互いに話したり、聞いたりする。	◎形や動きに着目するよう指示する。	A：様々な角度から形や動きの特徴を観察してとらえ、根拠をもって何の形かを説明することができる。 B：形や動きの特徴から想像し、説明することができる。 <input type="checkbox"/> ：見る視点を指して形を考えさせる。 <input type="checkbox"/> ：彫刻に触れさせて考えさせる。
つなげる	○授業の感想を発表する。	◎対話の感想を聞く。	
8	○本時の学習をアンケートで振りかえる。	◎まとめ	

題材名 「想像のつばさを広げて」

配当時間 3時間

基礎的能力：A表現(2)ア, ウ B鑑賞(1)ア [共通事項](1)ア, イ
育てたい力：日本語の響きを味わいながら表現方法や技法の選択をすることにより『まとめ上げの力』を育てる



指導者：木村文香 児童：鷹栖町立北野小学校6年1組27名

1 題材のねらい

本題材は、国語科の教科書にある『枕草子』を題材とし、日本語の響きを味わうとともに、その情景を想像し表現方法を工夫して絵に表すという合科的な造形活動である。日本の自然の特徴の一つは、四季があることである。『枕草子』には、そうした四季の変化や特徴がとらえられており、千年前の四季を身近に感じることができる。本単元で初めて、本格的な歴史的仮名遣いで表された文章に触れることになるが、四季の様子を手掛かりにすることで、情景をイメージしやすくなると考えられる。文章から感じたこと、想像したことから、表したいことを見つけて描くことができるようにする。また、表したいイメージに合わせて、材料や用具など、表現に適した方法を選択したり組み合わせたりして表すことができるようにする。さらに、自他の造形的な特徴の違いや言葉の解釈の違いを理解し、お互いの作品を鑑賞することを通して、日本の文化的な関心への広がりおよびよさや美しさを感じ取ることがねらいである。

2 児童の実態と育てたい力

本題材を学習するにあたり、児童は1年生から5年生に至るまでの間に、様々なモダンテクニックに触れており、技法の経験を積み重ねてきている。

本学級の児童たちは、写実的な表現への抵抗が強く、それに伴い表現の技能に自信をもてない児童が多い。しかし、行為を楽しむことや、考えを積極的に発言する児童が多くいる。そこで、本題材を通じて、文章中の言葉から発見した特徴をもとに、自分の考えやイメージに合った表現方法や技法の選択をすることにより『まとめ上げの力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画（全3時間扱い）

題材構成	時数	学習内容	児童の『喜び』の姿
感じる 想う	1	○『枕草子』を読み、語感や使い方をもとに四季の情景を感じたり想像したりして、イメージを描く。	・美しい情景を思い浮かべ、言葉の印象から一番表したい部分を決め、楽しくアイデアスケッチを描く姿
創る (本時)	1	○『枕草子』から表したい情景を豊かに想像し、表現方法や技法を考え、工夫しながら表現する。	・自分たちのイメージに合った表現方法を生き生きと選択する姿
味わう	1	○友だちと作品を見せ合い、形や色の特徴や表し方のよさを全体で交流する。また、原文の意味・内容を理解することで、より深く作品を味わう。	・自分や友だちの作品の工夫したところを見付け、感じ方の違いやよさや美しさを味わっている姿

4 本時の目標

○言葉で表された情景を豊かに想像し、自分らしい表現方法や技法を工夫して描くことができる。
《創造的な技能》

5 本時の展開（2/3）

段階	分	○児童の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	10	○『枕草子』を音読し、情景を確認する。 課題：お気に入りの季節を絵に表そう	◎原文巻物を用意し、掲示する。 ・前時に学習したモダンテクニックを掲示する	
深める	30	○季節毎に分かれたり、使いたい材料や道具毎に分かれたりして、心に浮かんだ情景を描く。	◎テクニックの特徴や道具・材料の説明をし、自由に楽しく集中して表現できるように場所・時間・約束の徹底を指示する。	【創る】 創 作品 A：枕草子の情景を豊かに想像し、一番表したいことや自分のイメージに合った表現方法や気泡を選んだり、組み合わせたりして描いている。 B：枕草子の情景の情景を想像し、表現方法や技法を工夫して描いている。 <input type="checkbox"/> ：根拠となる言葉を選択させる。 <input type="checkbox"/> ：イメージに合った道具や方法を考えるよう助言する。
つなげる	5	○自分たちの作品を説明する。	◎友だちの作品のよさや特徴を理解するように促す 詳しくは次時につなげる。	

題材名 「だいじな宝箱」

配当時間 9時間

基礎的能力：A表現(2)イ、ウ(3)イ B鑑賞(1)ア
 [共通事項](1)ア、イ

育てたい力：材料や用具の生かし方を工夫することにより『創造力』を育てる



指導者：澤田 克之 生徒：旭川市立東明中学校1年1組35名

1 題材のねらい

本題材は、幼児を対象とし、日常生活の中で遊んだり使ったりしたものを自分で整理整頓する行為である「お片付け」に着目した箱の制作である。箱の制作を通して、使用する他者の立場を考え、使いやすく親しみのもてる機能的なデザインについて構想し、使用する材料の性質や道具の扱いを理解しながら、創意工夫して作品が完成するまでの見通しをもつことができるようにする。また、制作活動の中で、つくるものの目的を明確に理解し、幼児が使う道具やおもちゃを出したり、片付けたりすることを想定しながら構想することで、完成した作品の価値に気付くことができるようにする。さらに、実際に作品を制作する立場に立って考えることで、相手の立場を考えることのできる「人に優しい感性」をより豊かに育むことがねらいである。

2 生徒の実態と育てたい力

本校の生徒は、明るく素直で何事にも一生懸命取り組もうとする。学習意欲は大変高く、美術の授業の中では、与えられた課題にほとんどの生徒が集中して取り組むことができる。理解力が高いため、造形的な技能も比較的高いレベルで身に付けている。

本学級の生徒は、表現活動に意欲をもって取り組むことができる。また、現状に満足せず、さらによりよい作品制作に取り組もうとする生徒も見られる。その反面、制作の見通しがもてず、苦手意識をもっている生徒もいる。そこで本題材では、生徒の実態を踏まえ、題材構成を「感じる」「想う」「創る」「味わう」とする。使用する相手の立場になってデザインを構想し、材料や用具の生かし方を工夫することにより『創造力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画(全9時間扱い)

題材構成	時数	学習内容	生徒の『喜び』の姿
感じる	2	○保育園へ訪問し、園児の特性を観察や触れ合いを通して知る。	・積極的に観察し、ふれあうことで気づいた内容の交流場面
想う	2	○保育園で実際に園児の様子をみて、具体的に構想を練る。 ○コンセプトシート使って、多視点でとらえ、よりよいデザインを構築する	・園児が使いやすく、機能的で、「お片付け」を意欲的に取り組める箱のデザインについて構想する姿
創る (本時)	4	○制作するものの意図や工夫、美と機能性の調和などを考え作業を進める。 ○材料の特性や用具の使い方などに留意し、丁寧な作業を心掛ける。	・相手が使うことを考え、丁寧に意欲的に制作に向かっている姿 ・終了時間が近づいてもよりよく工夫・改善しようとする姿
味わう	1	○プレゼンテーション形式で制作した作品について交流する。	・活発に作品について発表する姿 ・他者の発表を聞いて、共感している姿

4 本時の目標

○コンセプトシートをもとに、材料の特性や用具の使い方に留意し、見通しをもって、制作することができる。《創造的な技能》

5 本時の展開(6/9)

階分	生徒の活動	教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	○コンセプトシートを確認し、前時までの取組を振り返る。 ○課題を把握する。	◎コンセプトシートを確認するよう指示し、前時までの取組を想起させる。 ◎黒板に課題を提示する。	
課題：材料や用具を生かして箱を組み立てよう			
深める	○材料や用具の扱いに注意し、丁寧に箱を組み立てる。	◎切断した段ボールの寸法を確認し、誤差がある場合はカッターで修正させる。 ◎布ガムテープや色画用紙を使う場合、しわが寄りやすいので丁寧に作業をさせる。	【創る】 創 制作途中の作品 A：コンセプトシートをもとに、材料の特性や用具の使い方を工夫し、手順を整理して効率よく、立体を組み立てる作業に取り組んでいる。 B：材料の特性や用具の使い方を工夫し、立体に組み立てる作業に取り組んでいる。 □：美と機能性の調和などを考えさせながら、丁寧に作業をするよう助言する。 □：道具の使い方を実践する。
つなげる	○気付いた内容を発表したり、聞いたりする。	◎数名を指名し、モニターで作品を紹介しながら、発表させる。	

題材名 「自然からのイメージを広げよう」

配当時間 8時間

基礎的能力：A表現(1)ア, イ(3)ア, イ B鑑賞(1)イ 【共通事項】(1)ア, イ
育てたい力：材料や用具の扱い方を工夫することにより『構想力』を育てる



指導者：桑 村 美由紀 生徒：北海道教育大学附属旭川中学校1年B組38名

1 題材のねらい

本題材は、自然の事象からイメージを膨らませ、生まれたイメージを自然素材の形の面白さを生かして組み合わせ、立体で表現する造形活動である。身の回りの自然の偉大さや面白さ、普遍性などに気付き、よさや美しさを感じ取るとともに、元々材料がもつ形や素材感、用具の扱い方を生かし構成する力を養うことをねらいとしている。

2 生徒の実態と育てたい力

本校では、美術作品のよさや美しさを感じ取る感性、本物の美術の素晴らしさや美しさに感動する情操を養うことを重視し、美術館での鑑賞を各学年1回以上、鑑賞（表現に関わる内容を含む）の時間を年間で10時間以上教育課程に位置付け、編成している。

本学級の生徒たちは、美術の活動に興味をもってどんな内容にも積極的に取り組んでいる。授業中には自分の考えを積極的に発言することができる。また、生徒同士の仲もよく、話し合い活動や作品交流でも、物怖じせずに意見を交流することができる。そこで導入段階の題材構成を「感じる」「味わう」とし、2時間で立体を作ることの面白さ、形や素材の美しさを十分に感じ取らせる。そのことを受け、本時では「想う」「作る」の題材構成とし、他者と自分の作品を交流することを通して自分の構想を見つめ直し、様々な材料や用具の扱い方を工夫することにより『構想力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画（全8時間扱い）

題材構成	時数	学習内容	生徒の『喜び』の姿
感じる	2	○木材を使用した作品のよさや立体作品の面白さを感じ取る。	・木材にはいろんな素材があることを知ったり、触って確かめたりする姿
味わう		○様々な木材の素材感を確かめ、効果的な使い方を試す。	
想う (本時)	5	○「○○」な自然をテーマに、自然の一部を様々な素材感の木材を組み合わせる効果的に表す。	・素材感を楽しみながら、組み合わせ方を工夫している姿 ・他者の作品のよさを認め、自分の構想に生かしている姿
創る		○作品のよさや組み合わせ方の工夫を交流し、自分の作品の構想を見つめ直し、効果的な表現を探す。	
味わう	1	○自分の作品をグループの中で発表する。	・他者や自分の作品のよさや美しさを再確認する姿

4 本時の目標

○作品交流を通して、自分の構想を見つめ直し、主題を効果的に見せる表現方法を工夫することができる。
《発想・構想の能力》

5 本時の展開（3/8）

段階	分	○生徒の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	10	○前時までの振り返りと交流の意味・方法を確認する。	◎自分の表現したいことについてワークシートに簡単にまとめさせる。	
		課題：仲間と構想を交流し、主題を生かした表現方法を見つけよう		
深める	30	○自分の構想のポイントを制作途中の作品と説明で相手に伝える。 ○交流で得たよい表現方法や構想のアイデアから自分の作品を見直し、制作に生かす。	◎よいと感じたところについて発表させ、全体で交流する。 ◎自分の作品にも生かせるなど、実際にやってみて、ワークシートに書き足す。	【想う】 ◎ 作品、ワークシート A：主題を効果的に見せるように、様々な材料を組み合わせたり、表現方法を工夫したりして構想を練っている。 B：主題を効果的に見せるように、様々な材料を組み合わせる構想を練っている。
つなげる	10	○本時の活動や自己評価をワークシートに記入し振り返ることを通して、今後の制作の見直しをもたせる。	◎本時の活動の自己評価をするように指示する。	□：異なる素材の組み合わせにも目を向けたり、交流で気になった制作方法を試してみるよう助言する。 □：備えている内容を解決できる方法をいくつか提示し、選択させる。

題材名 『想像美術館』

配当時間 4 時間

基礎的能力：B鑑賞(1)ア 【共通事項】(1)イ
育てたい力：情報を視覚的に理解し、感覚的に整理できるICTの活用により『意味生成力』を育てる



指導者：山田 幸子 生徒：旭川市立神居中学校1年3組30名

1 題材のねらい

本題材は、150枚ほどの世界の名画の画像データを基にし、タブレット端末を利用して作品展の企画を考える鑑賞の学習活動である。グループ毎に、各作品の共通点を見出して分類し、その分類された複数の作品群の中から1つを選び、展覧会のテーマを設定する。その上で、よりテーマが明確になる作品を吟味して選定し、展覧会の企画をプレゼンテーションするという鑑賞活動である。

この鑑賞活動では、ふかんに作品を読み取り、造形的な視点(形、色、作品の主題、時代性)で作品をカテゴライズすることにより、作品がもつ造形的な要素を読み取る力を高めていきたい。また、展覧会のテーマを自分たちで設定し、そのテーマに基づいた作品を選定していく学芸員的な視点での体験活動をさせることにより、作品を見る新たな視点を獲得したり、美術館で開催されている展覧会の意図などに気付けるようにすることをねらいとしている。

2 生徒の実態と育てたい力

本校では年間に3回ずつの鑑賞の時間を入れて教育課程を編成している。これまでに教科書の題材「鳥獣花木図屏風」、「世界の民族的な仮面」を取扱い、鑑賞の学習を積み重ねている。

本学級の生徒たちは、鑑賞への関心は全体的に高く、積極的に取り組むことができる。また、作品の鑑賞を通して、気付いたこと、作品の特徴や時代的な背景にも興味をもち、作品から受けた印象についての発言ができるようになってきている。しかし、複数の作品を短時間で比較したり、共通性を見付け出ししたりすることは難しい。情報を視覚的に理解し、感覚的に整理できるICTの活用により『意味生成力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画(全4時間扱い)

題材構成	時数	学習内容	生徒の『喜び』の姿
感じる	1	○タブレット端末を用いて、色、形、主題、時代性の4つ視点から作品を閲覧する。	・様々な作品を閲覧し、4つの視点を探る姿
想う	1	○4つの視点から作品をカテゴリに分け、展覧会の企画に用いるものを1つ選ぶ。	・グループで話し合いながら作品を分類する姿
創る(本時)	1	○選んだカテゴリの作品から展覧会のテーマを決めて作品を絞り込み、タブレット端末を利用して展覧会の企画をつくる。	・展覧会のテーマや用いる作品を鑑賞する人の立場でグループで考える姿
味わう	1	○展覧会の展示順を決めて、全体にプレゼンテーションする。	・お互いの展覧会のテーマと作品の関連性を考えながら、発表や鑑賞する姿

4 本時目標

○テーマと作品を関連付けて展覧会の企画をタブレット端末の機能を活かしてつくることができる。
《創造的な技能》

5 本時の展開(3/4)

段階	分	○生徒の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	5	○本時の学習内容と目標を理解する。	◎スクリーンに授業タイトルや目標を掲示する。	
課題：テーマに基づきながら鑑賞者を意識して展覧会の企画をつくらう				
深める	35	○展覧会に用いる作品を絞り込み、展示順を決める。	◎テーマに合う作品を10点選ばせ、テーマに合致しているのかグループで話し合うよう指示する。	【創る】 創 タブレット端末データ A：展覧会の意図が明確に伝わるように会場図フォームにテーマを意識し、展示順や作品の配置、大きさなどにこだわりタブレット端末の機能を活かして企画をつくっている。 B：展覧会の意図が伝わるように会場図フォームにタブレット端末を活用して作品を配置している。
つなげる	10	○発表したグループの展覧会のテーマや展示内容、展示順などを聞いて参考にする。	◎いくつかのグループの現在の状況をピックアップして紹介する。	□：作品のつながり(形・色)を意識するよう助言する。

題材名 「旭川の彫刻家展」

～具象と抽象～

配当時間 1時間

基礎的能力：B鑑賞(1) [共通事項](1)ア、イ

育てたい力：体感や対話による鑑賞場面の設定により『感じ取る力』や『意味生成力』を育てる

指導者：川原 潤

生徒：旭川市立永山中学校2年1組41名



1 題材のねらい

『旭川の彫刻家展 ～具象と抽象～』とする第3グループの作品は、中原悌二郎賞と関わりの深い木内克や山内壮夫、また、旭川にゆかりの深い加藤顕清など5人の作家の作品で構成されている。具象彫刻と抽象彫刻とがあり、様々な作品の面白さが鑑賞できる。

具象彫刻と抽象彫刻、同じ抽象彫刻同士でも具象性の強い作品と抽象性の強い作品とを比較することで、それぞれの対象のとらえ方や表現方法の違い、作者の制作意図などを考えるきっかけとなり、より鑑賞を深めることができる。板津邦夫の木彫作品からは、素材の持つ温かみを感じることができる。彫刻の鑑賞に興味をもち、進んで鑑賞を楽しむ心を培うとともに、作品に対する見方や考え方を広げ、鑑賞を深めることがねらいである。

2 中学生の実態と育てたい力

『彫刻の街・旭川』と、うたう市内には、買い物公園や常磐公園、橋などに多くの野外彫刻が展示されている。行動範囲が広がる中学生にとって、街中に展示されている彫刻作品を目にする機会は増えているはずである。しかし、日常生活の中では、直接、彫刻に触れたり、語り合ったりする機会はほとんどない状況である。

中学生は知的好奇心が高く、生活経験や知識を活用し、客観的、分析的に対象をとらえる力が身に付きつつある時期である。根拠を明確にしながら自分の感じたことや考えたことを交流し、見方や考え方を広げたり、深く鑑賞する力を身に付けたりする体感や対話による鑑賞場面の設定により『感じ取る力』や『意味生成力』を育てたい。

3 本時の目標

○対象の特徴を感じ取り、作家の制作意図や表現方法の工夫について根拠を明確にしながら説明することができる。《鑑賞の能力》

4 本時の展開 (50分)

階分	○生徒の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
	8 ○授業の目的を理解する。	◎オリエンテーション	
見つける	2 ○彫刻と出会う。 課題：表現方法の工夫を見付けよう	◎彫刻を毛布に包んでおく。	【味わう】 鑑 観察
深める	10 ○五感を通して考える。	◎五感を意識して観察するよう指示する。	A：形や動き、量感などの特徴を五感で感じ取り、どうしてそう感じたのか根拠をもって説明することができる。 B：彫刻の特徴を五感で感じ取ることができる。 <input type="checkbox"/> ：具体例を提示して考えさせる。 <input type="checkbox"/> ：触れる場所を示して気付かせる。
つなげる	3 ○授業の感想を発表する。	◎体感の感想を聞く。	
	2 ○移動…ローテーション		
見つける	2 ○彫刻と出会う。 課題：制作意図を考え、根拠を明確にしながら交流しよう	◎題名を紙で隠した彫刻を囲み、並ぶよう指示する。	【味わう】 鑑 観察
深める	10 ○彫刻の形や動きを見て感じたことをお互いに話したり、聞いたりする。	◎形や動きに着目するよう指示する。	A：様々な角度から形や動きの特徴を観察してとらえ、根拠をもって何の形かを説明することができる。 B：形や動きの特徴から想像し、何の形かを話すことができる。 <input type="checkbox"/> ：見る視点を指して形を考えさせる。 <input type="checkbox"/> ：彫刻に触れさせて考えさせる。
つなげる	3 ○授業の感想を発表する。	◎対話の感想を聞く。	
	10 ○本時の学習をアンケートで振り返る。	◎まとめ	

題材名 「最高に〇〇な顔」

配当時間 5時間

基礎的能力：A表現(1)ア、イ(3)ア B鑑賞(1)イ 【共通事項】(1)ア
育てたい力：表現方法や技法を工夫することにより『まとめ上げの力』を育てる



指導者：藤原 賢

生徒：富良野市立樹海中学校1年 7名

1 題材のねらい

本題材は、感情の特徴を強調し、顔の表情を描く表現活動である。地域の祭りである富良野市『へそ祭り』に描かれる『凶腹』を題材として扱うことにより、顔を描くことが取り組みやすく楽しいと感じさせることができる。顔を構成するパーツに着目して様々な顔を観察したり思い出したりしながら、自分の表したい主題を生み出し、自分で決めた主題を基に表情を工夫して、命を吹き込んだようなダイナミックで生き生きとした表情を描く楽しさを味わわせたい。

2 生徒の実態と育てたい力

本校では、毎時間授業の始めの5分間をクロッキーの練習に充てている。また、1年生の学習では、風景画、レタリングの題材を取り扱い、教育課程を編成している。本学級の生徒は、絵を描く能力のうち、観察力と認識する思考が未熟で、絵を思い込みと慣れでなんとなく描いてしまうことが課題である。

地域行事の『へそ祭り』で腹に顔を描く『凶腹』を扱うことや、顔に見立てた写真により顔を構成するパーツを分かりやすくすることで、顔を描くことへの興味・関心を高めたい。また、「創る」場面では、顔を構成するパーツの線の長さや太さ、形や大きさ、色や配置などの表現方法や技法の工夫をするなどして自分の表したいイメージを描き上げる『まとめあげの力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画 (全5時間扱い)

題材構成	時数	学習内容	生徒の『喜び』の姿
感じる	1	○感情やイメージと表情の結びつきについて考える。身近なものを顔に見立てた写真から、顔を構成するパーツについて考える。	・感情が表情のどこに表れているか、形や色、顔を構成するパーツなどから進んで読み取る姿
想う	1	○表したい感情やイメージを考える。感情やイメージをより豊かに表現する方法について考え、アイデアスケッチする。	・感情やイメージと、表情を関連付けて描く。顔を構成するパーツの形や色、位置を工夫するなど、変化を加え楽しんで描く姿
創る (本時)	2	○構想をもとに、凶腹に見立てたTシャツ大の紙に顔を描く。パーツの線の太さや長さ、形や色を工夫して制作をする。	・表したい感情やイメージをもちながら、顔のパーツの線の太さや長さ、形や色を工夫して顔を描く姿
味わう	1	○作品カードに自分の作品についての説明を記述する。お互いの完成作品を鑑賞し、よさや工夫を伝え合う。	・自分の制作を振り返り、仲間の作品のよさや工夫を分かち合うことができる姿

4 本時の目標

○顔のパーツの大きさや配置、線の抑揚や長さ、配色の工夫をして表情豊かな顔を描くことができる。
《創造的な技能》

5 本時の展開 (3・4/5)

段階	分	○生徒の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	20	○参考作品を見て、表情の強調方法を考える。表情がより豊かになるようアイデアスケッチを描き直す。	◎表情を強調するための工夫に気付くことができるよう、教師の参考作品を提示する。	
課題：自分の表したい顔を、表情豊かに描こう				
深める	70	○絵の具の準備をして顔の制作をする。 ○友達の作品を、強調表現のポイントと照らし合わせながら見て回り、気付いたことを教え合う。	◎生徒の主題を確認し、工夫点を確認しながら助言する。 ◎主題が強調できているかを確認するために、作品交流をするよう指示する。	【創る】 創 作品 A：主題に合わせてパーツの大きさや配置、線の抑揚や配色の工夫をし、輪郭線の強調や陰影、隈取りなどして表情豊かに描いている。 B：主題に合わせて、パーツの大きさや配置、線の抑揚や配色などを工夫しながら表情豊かに描いている。
つなげる	10	○作品を自分の体の前に置いて全体に見せ、表情が上手く描けた工夫点を発表する。	◎自分の作品の工夫点を発表し、交流するよう指示する。	□：表現の工夫①パーツの形や大きさ、配置や向きについて助言する。 □：表現の工夫②線の抑揚、③色で強調を意識させるよう助言する。

題材名 「コマ撮りアニメーション」

配当時間 6時間

基礎的能力：A表現(3)ア, イ, ウ, エ B鑑賞(1)イ

育てたい力：学習形態とICTの活用を工夫することにより『伝える力』を育てる



指導者：板谷 諭 使

生徒：北海道旭川北高等学校1年選択18名

1 題材のねらい

新学習指導要領に高等学校芸術科(美術)の新たな学習内容として「映像メディア表現」が登場した。情報化社会に対応して、カメラ、ビデオ、PC等を使ってメディア機器独自の特質を生かした表現をし、交流する能力の育成がねらいである。本題材では、絵画などでは表せない画像、動き、時間、音などの要素を組み合わせた表現の可能性という視点に立ち指導にあたるが、PCなどのデジタル機器はあくまでも複製や修正が容易な道具に過ぎず、バーチャルな世界であるため、本来の創造活動における手を使った「つくる」という行為の尊さが希薄にならないよう注意したい。

2 生徒の実態と育てたい力

近年のPC、デジタル機器の発達は、個人レベルで画像加工や動画編集が可能な時代になっている。本校の調査では、写真や動画機能のついた携帯電話、スマートフォン、デジタルカメラを持っている生徒はほぼ100%、家にPCがある生徒も90%以上であり、映像メディアへの関心も高い。この様な時代、「映像」は社会の中で大きな影響力を持ち、メディアを使った表現は今後も発展、拡大していくものと思われる。

本校では平成25年度から「コマ撮りアニメーション」の授業を実施している。制作は、班毎に、与えられたテーマを表現するための構成、使用するもの、作業分担等を話し合いで決める。そして、静止画像をつなげることによってどう映像化できるかを班員が共通のイメージをもって撮影に入る。この授業では映像を見る側ではなく、作る側の立場に立つことで、ものを見る視野を広げさせたい。学習形態とICTの活用を工夫することにより『伝える力』を育てたい。

3 題材構成と指導計画(全6時間扱い)

題材構成	時数	学習内容	生徒の『喜び』の姿
味わう	1	○アニメの語源と原理を理解するとともにコマ撮りアニメーションを鑑賞し、黒板を使った2コマアニメを制作する。	・参考アニメの多様な素材と芸術性に興味をもつ姿 ・2コマアニメの仮現運動を見る姿
想う	1	○くじびきでテーマを決定し、テーマを伝えるための構成、使用素材、係分担などを班で討議する。	・静止画が動画になったときの共通イメージをもつ姿
創る(本時)	2	○被写体の制作をし、撮影する。	・班内でコミュニケーションを取りながら撮影する姿
創る	1	○静止画像の時間設定やBGMを決める。	・映像と音の調和を考える姿
味わう	1	○全作品の鑑賞と班による評価をする。	・表現の違いや他の作品のよさを見付ける姿

4 本時の目標

○得意分野を生かし、班で協力しながら限られた時間内で撮影することができる。《創造的な技能》

5 本時の展開(3, 4/6)

階分	○生徒の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	○注意事項を把握する。	◎制作場所、撮影手順、注意事項の確認をする。	
課題：班員が共通のイメージをもちながら協力して制作しよう			
深める	○時間やスピードを考えながらコマの変化を撮影する。	◎各班の制作の様子を見ながら、必要に応じてアドバイスをする。	【創る】 創 観察、画像データ A：共通のイメージを効果的に表現できるよう工夫して制作している。
つなげる	○撮影したものが動画になった時のイメージをもち、次時で利用するBGMや効果音を考える。	◎各自が完成のイメージをもち、次時までにBGMや効果音を考えるよう指示する。	B：共通のイメージで制作している。 □：アイデアの共通点を考えさせる。 □：アイデアのつながりを助言する。

題材名 「見立てて、ふれて、ひろげよう」

配当時間 3時間

基礎的能力：①図画工作科 1, 2学年 A表現(1)ア, イ, ウ

特別支援学校 1段階(2)

②自立活動 2 心理的な安定(ア)(ウ)

育てたい力：①材料・場所・人などの学習環境の工夫により『発想・想像力』を育てる

②造形遊びを楽しむことにより、心理的な安定を図り、自己肯定感を育てる

指導者：松本敏治, 若木博幸, 吉田梨江 — 児童：旭川市立永山小学校知的障害学級9名



1 題材のねらい

本題材は身近な素材であるペットボトルを材料として、並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくる造形遊びの学習活動である。本題材は教科・領域を合わせた指導である生活単元学習「ものとなかよし」の一環として行っている。導入場面での教材の提示の仕方を工夫することで児童の意欲を喚起し、大量のペットボトルを扱うことで児童に「なにができるかな」「こうしてみたい」という気持ちを引き出し、体全体で素材に触れ、つくり、つくり変える過程を繰り返す行為の中で、児童が様々な発想を生み出すことをねらいとしている。

2 児童の実態と育てたい力

本学級の児童は知的面では境界線よりやや下位であり、行動面では落ち着きのなさが見られる。また、何事にも苦手意識が強く自信がもてずにいる。図工の学習では、アイデアが浮かばなかったり、考えや思いがあっても積極的に形や言葉にしたりすることなどが苦手である。一方で、積木やブロックで遊ぶことを好み、学習も自分の興味のある内容では集中して意欲的に取り組むことができる。児童はこれまでに造形遊びを中心とした学習活動を行う中で、少しずつ発想を広げることができるようになってきている。また、「遊び」を楽しんだり、「よさ」をポジティブに評価されたりすることで、生き生きと自信をもって活動したり、思いを表現したりすることができるようになってきている。

そこで本題材では、「感じる」「思う」「味わう」題材構成とし、材料・場所・人などの学習環境の工夫により『発想・想像力』を育てたい。また、児童が活動中や振り返りの場面で自分の思いを教師や友達に認められることで、自信を養い、自己肯定感を育てていきたい。

3 題材構成と指導計画 (全3時間扱い) ◎は全段階を通じての自立活動としての『喜び』の姿

題材構成	時数	学習内容	児童の『喜び』の姿
感じる 想 う (本時)	2	○素材に触れて、形や色などの特徴をとらえたり、 どうやって遊ぶことができるか考える。 ○形や色を楽しんだり、見立てたり、積んだり、並べたりする。	・ペットボトルで自分なりに工夫して遊んでいる姿 ◎活動を楽しみ自分の思いを言葉や形で生き生きと表現している姿
味わう	1	○造形遊びの様子を写真で振り返り、その時の思いを発表したり、友達によさに気付いたりする。	・活動の時の自分の思いを振り返り、意欲的に発表している姿

4 本時の目標

- 体全体で素材に触れ、思いを膨らませながら造形活動をすることができる。《発想・構想の能力》
- 造形活動を楽しみ、自分の思いを生き生きと表現することができる。

5 本時の展開 (1/3)

階分	時間	○児童の活動	◎教師の指導の手立て	研究の視点・評価
見つける	15	○ウォーミングアップを行う。 ○素材と出会う。 ○素材に触れて、どんな遊びができそうか考える。	◎見立てクイズを行う。 ◎素材を見せたり遊び方を 実物や写真で提示する。	
深める	25	課題：思いをふくらませて、ペットボトルで遊ぼう		【想 う】 ◎観察、記録写真 ◇遊び方を考え、言葉や形で表現している。 □今までの遊びを基に考えを想起させる。 ◇素材を工夫して遊んでいる。 □一緒に遊んだり、周囲に目を向けるよう促す。 《自立活動》 ◇活動を楽しみ、自信をもって思いを表現している。 □一緒に遊んだり、ほめることで自信をもたせる。
つなげる	5	○授業の感想を発表する。	◎感想を発表するよう指示する。	

※感想発表後、再び活動(2/3)を行う。

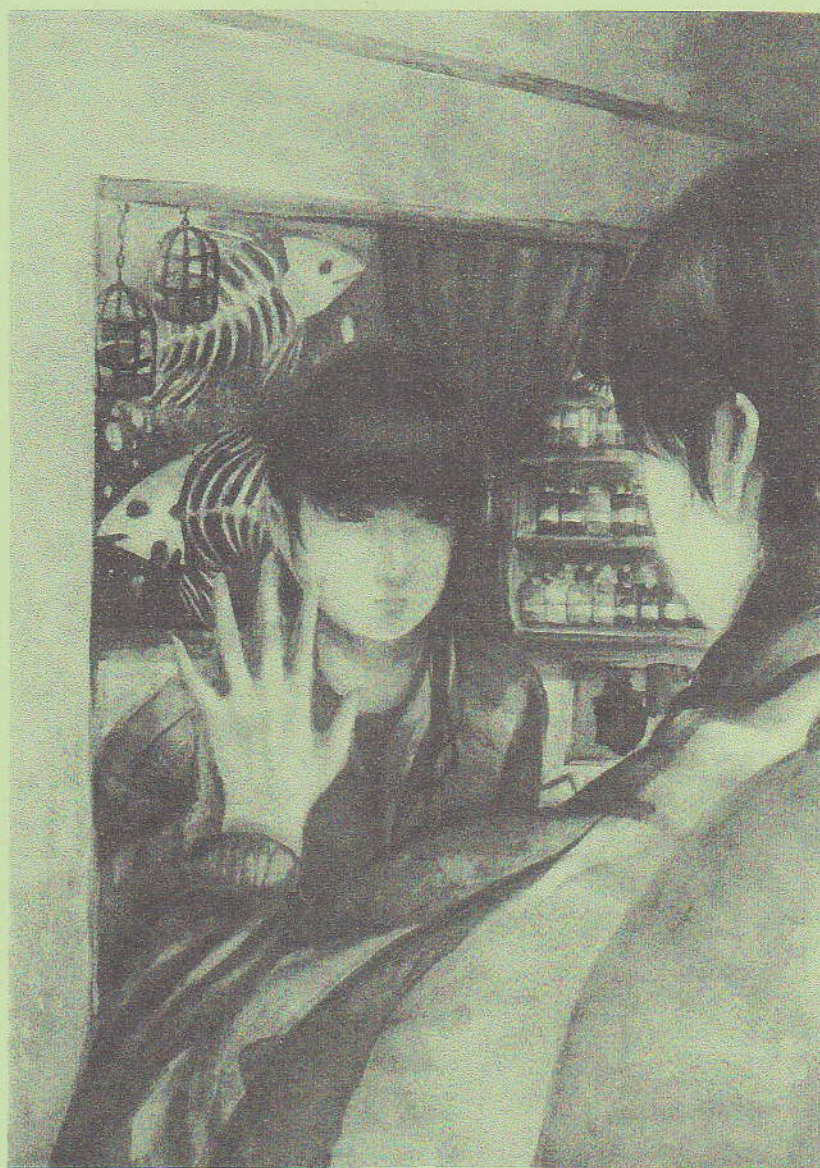
提言



「目」 旭川市立愛宕中学校 3年 上野 涼瑠

(平成 25 年度旭川市児童生徒作品展 旭川市長賞)

規約・研究のあゆみ 地区サークル・名簿



「非現実的」 旭川市立光陽中学校 3年 松崎 美帆

(平成 25 年度旭川市児童生徒作品展 旭川市長賞)